

Y994-J1199



1200700723545

第一四八號

昭和十四年一月

防共協定國情調査 第三號

一九三八年二月二十日國會に
於けるヒトラー總統の演説

外務省調査部

1994

J1199



I 種

W



1200700723545

は し が き

此のヒ總統の演説は一九三八年二月二十日の國會に於けるものであつて一言にして言へばナチス政權獲得後五年間の成果及び外交方針に關する報告演説である。一般にナチスの施政方針、成果報告等は毎年のニュルンベルクの黨大會で報告され、例の四ヶ年計畫の報告も一九三七年の黨大會で報告された筈である。併し黨大會の場合は其の報告も各部門に分れ別々に報告され、且つヒ總統のみならず、他の黨員中の専門家等の報告も多い。此の意味で此の二月二十日の演説はヒ總統一人でなされたものであり、且つ全般的にナチス五年間の成果を概観し得るものであると言へる。演説は三時間かゝつたと言ふ、言はば「三時間のナチス史」とでも言ふべきものである。

内 容 概 観

最初ヒ總統はナチスの過去回顧及び將來の見通しが此の演説の内容なることを前提して先づ政權接收前後の回想よりはしめる。

大まかに分類すれば、(一)ナチス黨の闘ひの回顧、(二)經濟、社會、文化方面の躍進報告、(三)外交問題の三部に分けられる。

一、獨逸は政治的に崩壊したが、政治的崩壊は一般に經濟的崩壊を伴ふ。これに眩惑された國民は

經濟さへ立直せば獨逸は復興すると考へ、ナチス以前の政治家も唯これのみに専心した。此處に根本的の誤謬があつた、これに對シヒトラーは先づ經濟崩壞の原因たる政治的復興に目をつけ、其の根本として民族的なるものに再興の前提ありとする。此處に從來の獨逸と一九三三年一月三十日以後の獨逸の歴史は全然別個のものとして考へられねばならぬと言ふ。即ち地方、階級、宗派等によつて分離してゐる利害團體を打つて一丸となし、血によつて結ばれた獨逸民族を完成せしむることこれである。

更にナチス黨内部の結束固き點に言及し、此の原因はナチスが十有五年間も排斥と壓迫のさ中に闘ひ續け自重してゐた爲であつて、これに依つて却つて、有能且つ實行力ある人士を集め得たと言ふ。烏合の衆は集めやすい、併しナチスはかくも長く待期したからこそ、第一線の兵士の如き精神力ある人士を集め得、其の人数が充分になつた所で最も自然な方法で政權を獲得した。

それよりかゝるメンバーを以て組織した黨が何故に獨逸再興に效果ありやに關して、ボルシエヴィズムと比較して大いに説く所がある。國民は救済を必要としてゐたゝめ、溺れるものは藁をも掴む心理でボルシエヴィズムにまで飛びついたが、結局實行力なくて成果をあげ得ない空論は駄目である。獨逸に對する非難もあるが、事實を見て呉れ、こゝにナチスの眞價ありと、ボルシエヴィズムを攻撃しつゝ、第二段の經濟、社會、文化の發展へ論を進める。

二、第二段に於ては前述の如く主として經濟、社會、文化政策上の結果を數字をもつて示し、此の五年間に獨逸が如何なる躍進をなしたかの事實を示す。この結果を見るならば獨逸を誹謗し中傷する輩、ジャーナリスト達、又自國の内政さへろくに出來ぬ外國政治家等をもつて黙すべきなりと言ふ。

其の内容を簡單に舉げれば、

(一) 經濟界の躍進

國民所得—生活費指數—產業生產額—手工業販賣高—農業生產額—失業者數—外國貿易—貯金拂込金増加—利子低下—國庫收入—石炭、褐炭採掘額—鐵鑛採掘額—等々の數字。

交通事項

自動車、オートバイ數—航行綱—國有鐵道—造船註文數—道路工事等、遞信事務一般—電話線—飛行郵便等。

住宅問題

(二) 社會政策

勞働戰線—賃金構成、休暇システム、賃金政策等の新舊比較—國民保健策等、

(三) 文化施設

觀劇映畫、音樂會等の參加人員—慰安催物—スポーツ—クラフト・ドルヒ・フロイデー—勞働奉

仕―冬期救済事業―ラヂオ―新聞、雜誌發行部數―劇場關係事項―旅行者數―出生數―青少年運動―職業競爭等、

右の各部門に涉り數字を以つて其の躍進振りを示し、外國ジャーナリズム等の中傷のあたらざることを説き、更に獨逸國民は十分に其の價值を自覺し、意志の敗北主義より救はれたるを説く。かくて獨逸は内政的に一致し、世上に所謂黨と國防軍の確執の如き事實無根なることを説き、更に一層國民の自覺をうながす。

三、外 交 問 題

これは内容を單に表示するに止める、

植民地要求―國際聯盟、集團保障制度反對並びに滿洲國承認―ボルシェヴィズムの危險性―極東問題、特に日本との關係―西班牙問題―對伊關係―對英對佛關係並びに外國新聞中傷記事の平和擾亂と獨軍備―波蘭並びに獨逸少數民族問題―埃太利問題―其の他。

猶本翻譯は當課眞鍋囑託をして譯出せしめたものであるが、原文が相當晦澁なるため日本文に譯出し難き場合少なからず、必ずしも原文に即せず所謂意譯した點も多少ある。

昭和十四年一月

一九三八年二月二十日國會に於けるヒトラ―總統の演説

議員諸君！ 獨逸國會の諸君！

諸君が獨逸國の選ばれたる代表者として、吾が國民の新しい歴史的興隆の發端を余と共に祝せんため吾等の政權獲得五周年記念の議會召集あるべきことは諸君も、同じく獨逸國民も期待してゐた。余は信ずるのである。

併し議會召集を此の二月二十日に定めたのには二つの理由がある。

第一に余は、一月三十日以前にあらずして、三十日以後に於て一部人事更迭を行ふことを正しと信じてゐる。

第二には吾國の外交關係に於ける特定の領域に於て事前に且緊急に必要なとされる説明をなすことが必要であると思はれた故である。これ即ち諸君がかくの如き日に於て過去への回想のみならず、將來への見透しをも與へられることを當然期待し居らるるを以てである。

故に此の二點こそ今日余の演説の課題であり、且内容である。

今より五年前の一月三十日正午に大統領ヒンデンブルク元帥閣下は余に宰相の印綬を與へ、もつて獨逸國の指導統治を余に委ねられたのであるが、其の時こそ、吾等ナチス黨員の眼には獨逸の運命の

轉換今ぞ始まりと見えたとのである。

但し吾等の政敵の眼には、此の出来事は、或る人物が宰相に任するや、忽ち數週間或ひは又數ヶ月の後に、背後に待ちこがれてゐる後繼者に席を譲らざるを得ざるが如き幾多の類似の事件に等しいと映じたであらう。

故に吾等ナチス黨員が、唯一回のみの歴史的一瞬として體驗したことは、吾等の政敵には單に一時的の出来事にすぎぬと思へたのであつた。

其の時の意義を正しく認識したのは、議員諸君！ 吾等を措いて他に何人もなかつたのである！

爾後五年間の歲月が流れた。此の五年間の諸々の體驗は余の宰相任命時の劃期的重要性を斷定すべき權能を吾々に賦與するものか、乃至は吾々の政敵の當時の見解の如く從來の獨逸内閣の數が單に更に一箇増加せりとする見地を是認するものに過ぎぬのであるか。

獨逸國民に何等他に一致なしとするも、少くとも此の歴史的事件に關しては今日ただ次の如き判斷が存在し得るのみであらう。

當時の吾等の政敵ですら、次に述べる點に關しては最早論争の余地はないであらう。

即ち余が獨逸最大の野黨の總裁としてヴィルヘルム廣場の大統領官邸に赴き、しかして國民の指導者及び宰相として再び官房より出て來りしあの日は、實に吾等獨逸民族の歴史に於て過去、現在、未

來を通じて、一の轉換期であつたのだ。

萬人皆以下述べんとする點に關しても、全き意見の一致を見てゐる。

即ち、一九三三年一月三十日は一時代の終結となり、ある新しい時代の發端となつたのである。かくて政權獲得以前の獨逸史と政權獲得後の獨逸史は區別して語られるといふ事實は、論議の余地なき所である、否自明のことである。

議員諸君！ 今日余は諸君に政權獲得以前の混沌たる状態を縷述せんとするものではない。それは今猶まざまざと記憶に新たなるところであるが、年少者は、例へ當時のことを敘述すると雖も、當時の獨逸の状態は殆んど考へ得ないであらう。此處に余は吾が民族の歴史の過去に於ける悲劇的な時代を明にするために、二三の一般的説明を試みようとするのである。

前世紀の初頭に於ける舊獨逸帝國、殊にプロシヤの崩解後、ニールンベルクの書籍商バルムの出版にかゝる熱烈、且注目すべき著書「慘たる屈辱に喘ぐ獨逸國」が世に出た。

此の小冊子は嘗ては獨逸國に覺醒的效果を齎し、其の結果ナポレオンをして、其の著者又は少くも其の出版者を銃殺せしむる決心をなさしめたるものである。併しかの大なる國民的出來事の終熄後は此の本も亦著書も多かれ少かれ全く人々の記憶より消え失せたのであつた。そこに新しい獨逸國が建設された、獨逸國の旗は勝利の輝につゝまれて光榮と名譽の數知れぬ戦場に翻つたのであつた。

然し此の偉大な開放戦も、現在の偉大且自らに目覺めたる輝しき事蹟の前には、遠い過去の想ひ出として色褪せたのである。

さて其の後（其の新獨逸國にも亦）、かの力強き英雄的なる力闘の終りに又もあの言語に絶した崩壊が來たのである。其の結果かの百年以上も昔の吾が祖國の困窮のどん底時代に書かれた「慘たる屈辱に喘ぐ獨逸國」はたちまち吾が時代の人々にも亦理解し得るに至つたのだ。

吾等は此の告白書の悲愴なる内容を一九一八年以來一人残らず自ら體驗したのであつた。

十有五年に涉り吾等國民の上に、獨逸史上最大の崩壊の結果たる重苦しい壓迫が續いた。そは決して吾國軍隊の崩壊ではない、經濟の瓦解でもない、否、吾等の行動、吾等の名譽、吾等の誇り延いては遂に吾等の自由の崩壊であつたのだ。

十五年の長きに涉り、吾等は國際的暴行に對し、意志なき且救ひなき客體として存在した。其の暴行は人道主義の民主的理想の名に於て唱へられてはゐたが、事實サディズム的利己主義の最も無慈悲なる懲罰の筈を吾が國民に打ち下してゐたのである。

此の吾等の屈辱と困憊の時代に探究的精神が此の事實の原因に就いて真相を究めんとして活動しはじめた。

過去現在に於ける幾多の出來事より次第にある一つの洞見が形成されて來た。平和富裕時に於ては

恐らくは無意味なりとして一笑に附せられ、或ひは少くとも正しくは理解されなかつたものも、憂苦困窮の強制の下に今や正しく認識せられ其の結果それは智識となり、無數の眞の獨逸人の信念的財寶となつた。吾人の歴史的存在の基礎、其の成立及び發展の原則、吾等の興隆並びに崩壞の原因延いては新獨逸國勃興の諸前提等の根本を突く檢討が生れ出たのである。

吾が國民精神は分裂するに至つた。何となれば常に然るが如く政治的崩壞は經濟的崩壞を伴ふものである。此處に於て單に經濟的にしか身を處するを知らぬ國民は、經濟的崩壞の中に吾等の不幸の本質を見て、次第に、かの經濟的困憊を超越して、より大なる政治的道義的困窮を身に感じた闘士から分離し遠退いて行つたのである。

獨逸國救済は實にただこれ等多くの闘士の手によつてのみ實現し得た。

彼等は經濟による國家救済を叫ぶ理解力なき市民的スローガンに對して、民族の内部的且外部的の勃興に依る國家並びに經濟の救助を主張したのである。

恐らく獨逸史上此の時はじめて洞察力ある獨逸人の眼は最早、人間的存在の本質的現象並びに機能としての國家又は經濟へは向けられずして、國家を擔ふ者、したがつて同時に勿論經濟をも擔ふものなる永遠の本質的なものの實在と實相とに向けられたのである。

過去の時代の政治的經濟的理想の上に斯くしてある新しきものが決定的に擡頭した。民族的なるものの即ち之である。

此處に始めて吾人の崩壞に對する本當の原因及び吾等の地位の實際的狀態の眞實獨立的な至上の檢討に對する前提が生じた。

以前には國民的運命への確實なる洞察を曇らし、錯亂せしめ、且つ麻痺せしめ得たる凡ての束縛は此の時より影響を失ひ、從つて無意味となつた。王黨的・宗派的・黨派的乃至國家形式主義的概念は、全民族的生活の支持者たる、血に依つて決定せられ又血に依つて結合せられたる本質的なものの實相を認識することによつて意義を喪失したのである。

個々に於ては此の崩壞の外面的終局原因と考へられ得るもの、即ち特に極度の困窮時に於て、從つて最も要求の強かりし時に於ける最上の指導が論議の余地なく無力化したこと、吾等の國家生活の內面的組織の明白なる缺點、吾が統治の精神なき官僚化、個々の人間の神經が崩壞せりとの主張或は大衆の精神錯亂せる昏迷等總ては、これ等弱點はせいせい外面的徴候にすぎずとの認識の前に消失した。何となれば、これ等に對して寒心すべき事實が存してゐた、即ち

一、獨逸民族は獨逸民族として未完成であること

二、其の國家も亦未完成のまゝなること

これである。

ビスマルクが獨逸統一國家を獨逸種族と其の諸邦から形成せんと努力してゐる間に、其の支柱とも

言ふべき國民は諸階級に分裂した、従つて其の結果再び國民生成の大きな基礎をなす個々の要素に分裂してしまつた。

獨逸種族の上に或る理論的の統治權が生じて來てゐる一方、其の統治權自身は、地方、階級、宗派に制約されたる利害團體の捕吏と化した。

此の内部的潰滅は其の害甚大にして、吾國最大の危險時に地方的並びに階級的、且又宗派的に束縛された諸見解より、獨逸及び國民にとつて此の敗北は勝利よりも大なる幸福であつたといふ思想が全く公然と宣傳され得た程である。年を取りすぎて居り外面的並びに社會的には屢々高く訓練されてはゐるが、血の點から民族にも全く根柢を失へる指導層は、かゝる不信義に對しては必要にして確固たる決斷力を以て對處する洞察もなければ力もなかつた。

故に彼等は最早、自らの弱點から由來したこの出來事を驅除することが出來なかつた。

故に、今日此の日に獨逸國民に此の事實を再び想起せしむることが必要であると思ふ。

余は一九三三年一月三十日大統領官邸に赴たが、余は獨逸國民を救ふために召された最初のもではなかつた。否最後の者であつた。即ち余の次には獨逸國民を救ふべき何人も存在せず、若しありとせば混亂あるのみであつたのだ。

何故ならば、余より以前に、數十年來獨逸國民の指導者並びに救濟者たる使命を有すと宣言したす

べてのもの達は、何れも皆試験済みとなつてゐた。一度ならず、二度三度、否もつと屢々これ等政黨の支持者は、何時も新たに宰相、大臣として、彼等自身がその責任を有する情勢を救ふために自薦して來たのであつた。社會民主主義、又中央黨の指導者達は次から次へと交代し合つた。自由主義的、デモクラシー的政治家が救済事業を行つた、市民的改良派經濟黨も同じく所謂「右翼團」の代表者等の如くに此の議會主義的救済行動に参加した。シュライヘル將軍が内閣を辭する其の日まで、吾が國のマルクス主義的、又中央黨、更に市民的政黨界の所謂「傑物」は獨逸の困憊と理論的に鬭争する一方、實際的には其の統治活動に依つて其の困憊を増大してゐた。

かく屢々お賞めにあづかつてゐる議會主義的デモクラシーの法則にしたがへば、ナチス黨は既に一九三〇年に政府に入閣すべき筈だつた。たゞ此のデモクラシーの政黨界は内部的虚偽が充滿して居た爲、當然吾人は此の運命に對しては其の權利を、従つて獨逸國民に對しては其の救済を最後の瞬間まで保留したのであつた。

然し遂に余に對して獨逸國の指導權が與へられたるときは、正に他の方法に依る獨逸國救済は其の最後の一つの試みまでも不成功に終り、然して吾が黨のみが此の使命に對する唯一の考へ得べきファクターとして残つてゐる如き時期であつた。

かく長きに過ぐる待機は、實に此の運動に對し、従つて獨逸國に對して、後に至つて始めて理解さ

れ得る態の效用をもたらした。其の意は、十有五年間反對黨の絶間なき排斥と壓迫のさ中に力を求めて闘争せる間に、黨の内面的道德的力が育まれたるのみならず、何より先づ外面的の抵抗力が養はれたのである。

その結果、吾等のスタートは極くさゝやかなるものであつたに拘らず、十五年の歳月が流るゝ間に獨逸國が未だ曾てこれに類似のものすら見たこともない一箇の政治組織を建設するに成功したのである。これに依つてこそ余には次の事が可能になつた、即ち長年の闘争に依つて制約された淘汰作用の結果を、黨の幹部の地位人材を配するにあたり顧慮し得たのである。

かくてナチスは、確固と組立てられた組織としてのみならず、有能の士の豊富な貯藏庫として政權獲得に足を踏み出すことが出来た。長年の闘争中に於ても、亦今日に於ても余を幾度となく心から満足せしめたるものは、此の仕事は決して余一人にのみ委ねられてゐるのではないといふ認識である。獨逸史上如何なる時に於ても、ナチスが獨逸國を克服したる時の如く有能にして特に實行力に富める人士が多數政治界に存在せしことなかりし事實は吾等の政敵の全く氣付かぬ所であつたのだ。

從來の市民的批評家達が此の運動は數のみ多くして、人物なしと互に陰口をきいてゐたが、こは正に彼等の眼界が狭く洞察力なき事に由來するものである。事實此の運動は大衆を集め得たが、これ即ち大衆は此の運動に人物あることを本能的に覺り且つ認めたるが故に外ならぬ。追従者がないことは

決して政治的頭腦ありとの眞の證據にはならない。反對に大衆の支持なきことは、頭腦なしとの推論の證據になるのである。小才の利いた單獨の一通行人として、時代にさまよひ乍ら、歴史の偉大なる形成者と内心自負することとは、共に歴史を造るに足る人士を集めるよりも勿論簡單である、否何より樂である。十有五年に涉り吾が黨は人を集め、組織だて、且編成を行つた。其の結果遂に政權獲得の時期が到來した時は、デモクラシーの法則に従つても、猶、最も合法的に政府を乗取ることが出来たのである。

吾が運動のプログラムは從來行はれてゐた社會的・政治的・經濟的見解及認識の大部分の領域に於ける革命である。政權接收自體が既存現象の征服に於ける一つの革命である。常に然る如く此の時も亦、長年の壓迫をうけた此の運動は其の桎梏の鎖を切斷はしたが、併し獲得せる自由を理性的に使用し得ざるに非ずやとの危険はやはり存在した。併し吾が運動が一九三三年の革命を實現したあの感激を共に體驗し得たことは吾等にとつて誇るべき意識である。

たゞ此の全期間に涉り吾等の組織の鐵の如き構成、殊にナチスの疾風の運動の規律は一度も弛緩紊亂したる事なしと斷言し得るのは、吾人にとりてやはり大なる満足である。國家が、かゝる状態の下に、しかもかゝる國內的安定及び平穩を以て克服されたことは未だ見ざる所である。

吾が民族の歴史に於ける此の最大の轉換、即ち其の重要性が他の世界にとりても今や漸次明白にな

りつゝある此の出来事はいさゝかの物質的財物も劫掠せられることなく、且又他の國に於ては滑稽な位些細な出来事の際に屢々行はるゝを常とする如き流血の慘事もなく行はれた。

其はナチスの幹部等が血を見るに耐へ得ざりし爲ではない。吾等は皆前線の兵士であつたのだ、あの凄慘なる戦を経験したるものであり、數知れぬ死人を此の眼で見、自らも死に直前し、死の覺悟をなしたる者である。

獨逸革命が流血を見ずして行はれたことは、實に、吾等は皆革命のさ中にあるとも、ゲルマン的性格を強調せんと固く決心してゐた爲に他ならぬ。我等は最小の損害で最大の效果に到達せんことを望んでゐたのであつた。

今日余はナチス革命の一段落として此の五年間を概観するに當り、以下の事を確認し得る、即ち吾が敵の死者數はかつて革命以前彼等に依つて殺害されたるナチス黨員の半數にさへ達しないこと、然してしかも其の敵の死者たるやナチス革命に反對して自ら新たに行へる攻撃の犠牲たるにすぎないことを認め得るのである。

兎に角吾等は、ナチスの勃興を一部は犯罪者的本能から或ひは經濟的又は政治的利害關係から故意に誹毀すべきなりと信じたる輩の考へた方法と異なる他の方法を以て國家を保護する事を心得てゐたのである。

ナチス運動が其の革命遂行に於て保持しゐた無類の規律と控へ目の態度にも拘らず、若干の外國の新聞雜誌は此の新獨逸國に嘘言と誹謗の雨を注ぎかけたのであつた。特に一九三三年一九三四年に於ては吾等の所謂デモクラシー國家の政治家、政論家、又はジャーナリストはナチス革命の方法と處置を批判する義理でも有するかの如く感じてゐたのを、吾人は絶えず目撃した。これはこれ等民主的使徒にとつてせいせい手本たり得る國民的出來事に關し、不遜にも裁判官たることを一度ならず敢てなしたる高慢と嘆すべき無智との稀に見る混合であつた。何となれば、これ等の國々に於てかゝる國內的轉換が、吾國と同じやうな附隨狀態の下に行はれた事が一體何時あつたであらうか。

余は今更、丁度獨逸國建設の期間と同じく正に五年間繼續したる、かのギロチンが血腥き躁宴を祝せるあの革命中の最大の典型を、諸君に想起せしめる必要があるだらうか。或ひは幾百萬の人々が殺害せられ、しかも其の血に汚れた下手人がデモクラシー制度の評議會に於て聲望ある高き地位を得てゐる、あのボルシエヴィズムの革命を諸君に想起せしめる必要があるだらうか。更にデモクラシー國家に國籍を有する慎重なる人々の査定によれば、死者五十萬を以てしても過大にあらざるあのスペインのマルクス暴徒の虐殺を想起せしむべきだらうか。吾等は、この虐殺行爲は世界平和主義者の健氣なる民主的心情を今日までも毫も衝動せしめざりしことを知つてゐる、且それは十分理解出來る事である。何故なら彼等の偽善的假面の背後には最も野蠻なる暴力へ對する意志のみが多くの場合伏在し

てゐるから。

余の之を言ふは、決してかの猶太の國際的虚言者並びに誹謗者を何等かの方法により改宗せしめ得ると考へる爲ではない。ただ獨逸國民にナチス革命は如何に前例なき手加減を以て行はれたか、又これに關して如何に前例なき虚言をもつて口に筆に論せられしか、又現にしかあるかを示さんがために言及するのである。これ等すべての主張の虚構なることの最善の證左は爭論の余地なき此の成功の中に存在してゐる。何とならば、若し吾人が此の五年間、ソヴィエト露西亞、ソヴィエト西班牙的系統の、換言すれば猶太種族的の健氣なる民主的世界市民と同じく亂暴狼籍を行つたとせば吾人はごん底の物質的崩壞の獨逸國より、物質的秩序を有する、且一般的再興の道をたざる國土を作り得なかつたであらう。だゞ此の故に、且つかくあるべかりしが故に、犯罪者流又は亂心者に對し、吾人の仕事の妨害を不可能ならしむる如き防衛の陣を張る權利を吾人のために要求したのであつた。然して、今日余が議員諸君に對し、又全獨逸國民の前で此の報告をなすあたり巨大にして且つ空前の業績を示し得るのであるが、此の業績自體の中にのみ、吾等の行動手段の最高の理由づけ、従つて此等の業績を確實ならしむる根據が存すると認められる。既に述べた如く、一九三二年の獨逸情勢は經濟的に漸次不景氣のごん底に落ち行き、其の結果多數のものには――皮肉にも正に此の方面で見識ある人士こそ却つて――最早改善の如何なる見透しもなきかの如くに見えたのであつた。

一月三十日故大統領が余に宰相の印綬を授與した時、たゞ單に此の方面より見るも獨逸國の狀態は殆んど全く期待すべきものが無かつた。最も見識ある人々でさへこれを救濟せんと試みに全く失敗してゐた、すべて在來の經濟的方法是此の際は無効なることが示された。兇惡なる宿命論が吾が國民に滲透してゐたのであつた。再建設を考ふる以前に先づ全部を破壊するを要すと説く者が益々勢力を極めてゐた如くである。實にこれ災にみちた教へではないか。何故ならば、國民の救濟なるものは、あらゆる人間的な考方から見て、國民の一人々々の間によりよき生活標準への希望が存在する間のみ可能だつたのである。併し混沌への顛落は合理的生活標準の最後のものをも破壊することに導かざるを得なかつた。従つて猶現存せる物質的状況を基礎として出發し、其の改善へと努力する憧憬の消失へと導かれた。ボルシェヴィズムの原始主義崇拜は生活水準の改良へ努力せんとする力、人間の中にある其の力を異常な確實さを以て破壊し、生活水準向上への前提としての、勞働業績の向上を無にしてしまふのである。

これ等破滅の基礎をなす混沌の使徒にかの市民的エゴイストが對立してゐた。彼等にとつては國民の經濟的救濟は即ち全體の利益を顧みずに安價なる利得を確保するに外ならなかつた。すべての困窮時代に然る如く、此處でも亦下劣なる投機師の根性が社會の一般的な缺乏困窮に乗じて私腹を肥さんとした、即ち困憊を脅喝の乃至は欺偽的行爲に利用せんとした。

國民が亦救済への可能性ある途に關して明瞭なる概念を持つてゐなかつた、たゞ多かれ少なかれ宿命づけられたる貧困化を漠然と感じてゐたに過ぎなかつた。故に彼等は、これを變更出來ぬ發展の結果なりとするものに賛し、一方反對に何か僞瞞的言辭によつて、此の耐へ得ざる状態から出來得る限り簡單に、従つて特に容易に脱出すべき途ありと言ふもの、後を追ふ傾向が強かつた。更に個人の收入が混亂状態に陥れるのみならず、何よりも公私の社團の財政が根本的に崩壊にさらされて居た故に、それ丈時代は逼迫した。かくてかゝる瞬間に余は宰相として獨逸國の指導、延いては獨逸國に對する全責任を引受けたのである。

かゝる破滅的状态に直面して以下の二點が必要不可欠であつた。

一、全體的對策を以て開始する事。

二、卽座に行動に移すこと。

余は少しも猶豫すべきではなかつた、又中途半端な行動の繼續によつて現存の結果とは異つた結果に達し得るとは望むべくもなかつた。國民が全く救済さるゝが爲に、此の際望み得べき事は、辯舌への勇氣でもない、批判への勇氣でもない、行爲への勇氣であつたのだ。

若しある國土に於て十萬の農夫が農場耕地を失はんとして居るならば、若し十萬の産業勞働者がバンを失つて居るならば、若し一萬の企業が其の門を閉さねばならず、そして雇傭者並びに勞働者が解

雇さるゝに至るならば、若し六百萬にあまる失業者の群が、しかもそれが絶えず増加しつゝあつて、常に國、州、自治體の財政に壓倒的な重壓となり、更にあらゆる保護にも拘らず生活必需品をも購入し難いとするならば、若し精神的プロレタリアなるものが形式され、其の獲得せる教養が自らの祝福ならずして呪咀となるならば、若しかつて榮えた工業都市は荒廢し、大なる地域が其の生産の捌け口がない爲全く枯死に頻するならば、若し又幼年者達が戰慄すべき赤貧のため、従つて其の結果榮養を採り得ず三四才に至るも齒が生えぬならば、若し彼等にパンもミルクも調達されないならば、若し獨逸國民は二千萬の過剩を來したりと主張する冷血なる敵の言葉が、次第にその恐るべき現實に依つて確認されるに至るならば、國民は決して低劣なジャーナリストや、議會主義時喋舌家を求め叫ぶものではない、彼等は決して調査委員會、國際討議、笑ふべき投票、又は内外の所謂「政治家」の淺薄なる空語を求めはしない。否、彼等は喋舌や、愚にもつかぬ新聞記事を超越して、救済をもたらす行爲そのものを求めて叫ぶのである。

國民はサロン・ボルシ・ヴィズムの國際通信員の文學的論文などには興味はない、彼等はただ極端なる慘狀より開放する救済に興味をもつのである。然してかゝる時に國民の指導統治を引受くべき使命を義務として感ずるものは、議會主義的慣例の法則に對し責任をとり、或はある民主的觀念に束縛される如きことなく、専ら自らに課せられたる使命に責任をもつものである。然して此の際此の使命

を妨害するものは、ボルシェヴィストとしてであれ、民主主義者としてであれ、革命的テロリストとしてであれ、或ひは反動的空想家としてであれ、等しく國民の敵である。かゝる困窮時に於て行動をなすものは、聖書の文句を下げて漫然と國中を遍歴し、或ひは無爲に、或ひは他人の行動の批判に時日を浪費する如きものでは斷じてない、然らずして自らの祈禱に、人間を神と結合さす最高の形體即ち勞働の形體を創るものである。

然して今日余は獨逸國民の前に此の報告演説をなすにあたり、余は都市、又地方に於て自らの勞働の汗に依り篤實なるパンを得てゐる何百萬の同胞を眼を見開き誇りを以て迎ふことが出来る。此の五年間余も亦勞働者であつたのだ。ただ余個人の憂慮は、余以外六千八百萬の同胞の生活と將來を憂慮する念に依つて増大したのであつた。

之等勞働者達が、無爲怠惰なる輩のために其の勞働の妨げらるゝを當然拒絶する如く、余も亦、余の仕事が無爲者無能者或ひは惡意ある、且怠惰なる分子によつて妨害さるゝを拒絶し來つた。此の際余は、協力することなく、漫りに吾等の仕事を批判し、判斷するを使命と心得る如き輩には反對すべき權利があつた。宗教も亦、國民の救済を遂行するものゝ仕事に参加すべき義務から免かるゝものではない。余が、余及び吾等すべての仕事をかゝる公然の平和攪亂者から防ぐ權利を有することは、此の仕事の成果に依つて證明したのである。此の成果は論議の余地なきところである。但し、何より、

余にとりてこれらの成果は、從來の業績を手本として爲し得たと言はんよりは自らの健全なる判断力、並びに妨害の前に屈することなく、それに對して勇敢に抵抗する眞正の意志を基礎としてのみ行はれたが故に一層著しきものであつた。この際此處に余は猶一つ確認したいことがある。

獨逸國が今日經濟的に救済されたりとするならば、獨逸國民はそれをたゞ自己嚮導と自らの勞働とに歸せしむべきである。外國はこれに對し何等貢獻する所はなかつた。嫌惡に滿ちたる拒否、又は偏狹なる半可解以外には、獨逸國の爲救ひの手はおろか積極的利益として認められ得べきものは何一つなかつた。

余は亦これ以上は期待してゐなかつた。吾等ナチスにとりては、政治的、經濟的又は財政的にもせよ、他よりの助力に其の救済を望む所はなかつた。此の救ひを全く自らの力の範圍内に於て求むることとは、吾人の政治的且經濟的信條のイロハであつたのだ。

此の際以下の如き認識が標準となる、即ち國民の生活標準は生活に必要な財貨の總生産額の結果以外ではあり得ない。換言すれば獨逸國に於て支拂はれる勞賃全額及び總俸給の有する實質的價值は其の勞働の結果生産された財貨に相當するに過ぎないとの認識である。これは「少なき勞働を以てより多き賃金を與へよ」なる叫びが反響する時代に於ては非常に人氣の悪い教である。

余が獨逸國の統治指導を引受けた時、失業者の數は六百萬以上に上り、その家族の數は千五百五十

萬であつた。故に此の問題の解決は、此の千五百萬の人に生活費を支拂ふのみならず、此の金で買ひ得べき物品を生産することが肝要であつた。故にナチスの經濟プログラムは貨幣計畫に非ずして、全く生産計畫であつた。生産の全額が増せば増す程、個人に關する利益配當が大になる譯ある。貨幣自身は生産物の分配に役立つ一時的手段に過ぎぬ。此の際國民にその生活問題を妨害なく遂行するに必要な地位を與ふるため、以上の他に、國民生活整備品として同胞に直接ならずとも、間接に役立つ如き附加的生産が行はねばならなかつた。これと共に獨逸救済を、欺偽的貨幣本位の策動と同一視すること、即ち賃金の上下につれて價格を上下せしめ、市民をごまかすことは當然禁じられた。然らずして生産の増加によつて増加せる國民所得に固定せる購買力を獲得することが必要であつた。

ナチスが此の問題を解決したりや否や、解決せりとせば如何なる程度にまでなされたるやを示さんため、余はこゝに無味乾燥乍ら數字を上げて吾人の經濟生活の簡單なる摘要を示さんとするものである。

一九三二年即ち政權獲得以前は獨逸國民所得は四百五十二億馬克であつた。一九三三年には既に四百六十六億馬克に上り、一九三七年には全額約六百八十億に達した。

此の所得増加に拘らず一般生活費指數は殆んど全く同じ高さに留つてゐた。即ち一九三二年は一二〇・六、一九三七年は一二五・一であつた。

即ち國民一般收入が殆んど五〇%の上昇を見るに拘らず一般生活費指數は四%の上昇に止まつてゐる。

此の原因は吾が全生産額の増大に存してゐる。

産業生産價格は以下の如くである、

一九三二年 三百七十八億馬克

一九三三年 三百九十九億馬克

然るに既に

一九三七年には七百五十億馬克以上。

これに對應して個別部門の販賣額は、例へば手工業に於て、

一九三二年 九十五億馬克

一九三三年 百一億馬克

一九三七年は既に二百二十億馬克に達してゐる。

比較のため此處に小賣の販賣價格を擧ぐるならば、

一九三三年 二百十八億馬克

一九三七年 三百十億馬克

となる。

更に亦農産に於ても、それ自身從來既に其の耕作状態は最高程度に達してゐたにも拘らず、猶其の結果は上昇を示してゐる。

一九三二年

八十七億馬克

なりしものが、一九三七年には百二十億馬克を超過してゐる。

此處に吾人が力を入れたのは價格形成の問題のみならず、増産の問題でもあることは獨逸國民の購買力の増加及び、それに伴つて特に食料品市場への殺到が激増したにも拘らず、一九三二年には食料の七五%迄を自給し得たものを一九三六年には八一%に上昇せしめることに成功した事實に依つて解るであらう。産業生産額は今や三百七十八億より七百五十億に上昇したが、この事實は個々の例に依り個別的に明瞭ならしむることが出来る。ナチス五ヶ年の經濟指導に依り

製紙

五〇%上昇

ディーゼル油製造

六六%同

石炭產出額

六八%同

燃料油生產高

八〇%同

石油生產高

九〇%同

人絹生産高

一〇〇%同

燈油生産高

一一〇%同

鋼鐵生産高

一六七%同

滑油生産高

一九〇%同

ベンジン及其他動力原料

四七〇%同

アルミニウム生産高

五七〇%同

人造纖維生産高

二、五〇〇%同

此の素振らしく上昇を示した國民的生産は獨逸馬克に其の購買力、延いては其の安定性を確保すべき價値を附與したものである、同時に一方、此の生産上昇に對應して失業者數は政權獲得の際に六百五十萬を超へてゐたものが、一九三七年十月の初めには約四十七萬に減少してゐる。

生産過程に新規に編入せられたる勞働者數は更に猶二百萬の増加を見てゐる。

此の法外なる經濟活動は更に貿易業に於ける數字に依つても示される。世界經濟會議にも列席せず、他の強國の如き巨大なる經濟的可能性をも有せずして、吾人は輸入に於ては、

一九三三年度の四十二億より

一九三七年度の五十五億に、

輸出に於ては

一九三三年度の四十九億より

一九三七年度の五十九億に

増加することに成功した。

吾が經濟政策に對する獨逸國民の信用もこれに對應するものがあり、右は貯金の増加に於て現はれてゐる。公立貯金組合に於ける拂込金増加は以下の如くである。

一九三二年 百十四億馬克

一九三三年 百二十一億馬克

一九三六年 百四十六億馬克

一九三七年 百六十一億馬克。

此の計畫的國民經濟は組織的利子低下を隨伴現象として伴つた、即ち短期クレジットに於ては

一九三二年 六・二三%より

一九三七年 二・九三%

に、長期クレジットに於ては

一九三二年 八・八より

一九三七年

四・五%

に低下を示してゐる。

國庫收入さへも亦以下の如き額に達した。

一九三二年

六十六億馬克

一九三三年

六十八億馬克

一九三四年

八十二億馬克

一九三五年

九十六億馬克

一九三六年

百十五億馬克

一九三七年

百四十億馬克

一九三八年には恐らく百七十億に達するであらう。

余は此處に此の獨逸生産の素振らしき上昇、延いては經濟隆興の證左とも言ふべき總額中より、少しく數字を示して、若干概觀せんとするものである。

吾が國經濟の最も重要な基礎の一は吾が豊かなる石炭埋藏量にある。

石炭採掘量は各年以下の如くである。

一九三二年

一億四百七十萬噸

一九三三年	一億九百七十萬噸
一九三四年	一億二千四百九十萬噸
一九三五年	一億四千三百萬噸
一九三六年	一億五千八百萬噸
一九三七年	一億八千四百五十萬噸

褐炭の採掘量も亦類似の様相を呈してゐる。

一九三二年	一億二千二百六十五萬噸
一九三三年	一億二千六百七十九萬噸
一九三四年	一億三千七百二十七萬噸
一九三五年	一億四千七百萬噸
一九三六年	一億六千三百三十七萬噸
一九三七年	一億八千四百七十萬噸

議員諸君！ 獨逸國民諸君！

石炭約八千萬噸、褐炭六千二百萬噸にのぼる年採掘量増加は、非常に持て囃されたる民主主義時代に流通してゐた貨幣が何等の對價なくして幾十億の増加を見たることは全く別な價值要素である。更に

之に劣らず驚嘆すべき事實は鋼鐵及び鑄鐵生産及び獨逸鐵鑛の探掘量に見られる。

一九三三年に於ける獨逸の鋼鐵生産高は九百六十六萬噸であつた、それが

一九三四年 一千三百五十五萬五千噸

一九三五年 一千六百一萬噸

一九三六年 一千八百六十一萬四千噸

一九三七年 一千九百二十萬七千噸

となつた。然してこれは一九三八年には二千百萬噸に達するであらう。

同時に鑄鐵生産は百四十萬噸より三百七十萬噸に上昇した。

これ等は一生産過程の結果であるが、其の外面的特徴は今や再び煙を吐く幾千の煙突である、何千何百の工場と仕事場、其處に何百萬の獨逸人が再び仕事とパンを得てゐるのであるが、ナチスは彼等を其の失業から救ひ出したのである。

アメリカ合衆國に次いで獨逸は今日斷然世界最大の鋼鐵國となつたのである。

獨逸鐵鑛探掘は

一九三二年 百三十萬噸

であつたが、これも上昇を示して

一九三三年には既に 二百六十萬噸

一九三四年 四百三十萬噸

一九三五年 六百萬噸

一九三六年 七百五十萬噸

一九三七年 九百六十萬噸

となつた。

これは一九四〇年には既に開始されたる計畫に依り二千萬噸に上るであらう。然して更に四ヶ年計畫の遂行過程に於て吾が黨員ゲーリングによりて基礎づけられたる追加採掘が加はるべく、ヘルマン・ゲーリング國營企業のみにも其の額一九四〇年には二千一百萬噸以上に達するであらう。獨逸國鐵鑛採掘はこれにより一九四〇年には一九三二年の百三十萬噸に對して總計少くとも四千一百乃至四千五百萬噸にいたわるわけである。

この事實に依つて獨逸國民は、國民の困窮は喋舌によらずして、たゞ一回の偉大なる處置に依つて除去し得ることを察知すべきである。

同じく他の諸領域に於ても獨逸の國內生産は増加してゐる。

例へば水礬土鑛の採掘は一九三二年の千三百六十噸より、一九三七年には七萬三千二百八十噸に上

昇、マグネシウム採掘額は零より二萬一千噸に上昇。

螢石採掘量は

三萬六千噸より十二萬七千噸に上昇。

重晶石採掘量は

十一萬噸より四十二萬三千噸へ上昇。

石墨採掘量は

二萬一千噸より二萬四千噸へ上昇。

アスファルト石灰採掘量は

三萬三千噸より十萬九千噸へ上昇。

砒素鑛採掘量は

二千八百噸より二萬六千四百噸へ上昇。

黃鐵鑛採掘量は

十六萬五千噸より四十二萬噸へ上昇。

ニッケル鑛採掘量は

零より八萬七千噸へ上昇。

鉛及亞鉛鑛探掘量は

百十八萬噸より二百四十萬噸へ上昇。

加里原鹽の採取は一九三二年六百四十一萬五千噸より千四百四十六萬噸に上昇を見た。

石油產出高は一九三二年の二十三萬八千六百噸より一九三七年には四十五萬三千噸に上昇。

動力輕油、即ちベンゼン其の他の生産額は一九三二年の三十八萬六千噸より一九三七年には百四十八萬噸に上昇、然して本年は四ヶ年計畫の諸大工場未だ活潑なる活動を始めざるにも拘らず百七十萬噸を超過する見込である。

ディーゼル油の生産は六萬噸より十二萬噸に上昇を見、更に、

滑油生産額は

四萬五千噸より十四萬噸へ、

燃料油生産額は

十六萬七千噸より三十二萬噸へ、

燈油生産額は

一萬九千噸より四萬噸へそれぞれ上昇。

羊毛の生産は四千七百噸より一九三七年には七千五百噸に昇り、猶、

亞麻は三千百噸より二萬四千噸へ、

大麻は二百十噸より六千噸へ、

人造纖維は四千噸より十萬噸余へ、

人絹は二萬八千噸より五萬七千噸へ、

それぞれ上昇した。

余は以上の他に猶多くの例を擧げることゝ出来る、これ等はすべて、吾等國民に於て未だ嘗て類似のものすら遂行せられざりし事業の記錄的實證である。

この結果に加ふるに更に數年の中にかの四ヶ年計畫の巨大なる附加的結果があらはれて来る。かゝる世界的業績に對し、内外の愚評家輩のあの馬鹿らしき蒙昧さ、かの固陋且惡意あるジャーナリスト又は議會主義的無能者等の駄文は何を言はんとするか。若し他の國々で、自らも危機に直面し乍ら、しかも吾人を批評し又は賢明なる獻策をなすべきと信ずるものありとせば、そは世界歴史上の滑稽事ではないか。

吾人は他よりの助言も助力もなく、世界列國が手を束ねてなす所を知らざる困窮を除去せんと試みたのである。

此處に余は更に他の二三の領域に於ける吾人の業績を國民に語りたい。

自動車及びオートバイ許可数は以下の如くである。

オートバイ

一九三二年 五萬六千四百臺

一九三七年 二十三萬四千臺

乗用自動車

一九三二年 四萬一千臺

一九三七年 二十一萬六千臺

貨物自動車

一九三二年 七千臺

一九三七年 五萬九千六百臺

總計に於て獨逸國は五年半前には百五十萬臺なりしものが、今日は約三百萬臺の車輛數に達したのである。

大衆（廉價）自動車は數年を出でずして全く異つた數字を示すに至ると思はれる。

一九三七年に於て、一九三二年度より約五倍の自動車、オートバイが許可されたのであるが、一方其の輸出額は一九三二年度の八倍に上昇したのである。

獨逸國內航行に於ける輸送貨物數量は

一九三二年 七千三百五十萬噸

一九三七年 一億三千萬噸

大規模に涉り新しく行へる治水工事、運河開拓は今日既に巨大なる發達をなした國內航行網を補充し、且より大なる交通發達に導くであらう。

海上航行に於て其の輸送數量を見れば、

一九三二年 三千六百萬噸

一九三七年 六千百萬噸

かくて一九三二年に於けるエルベ河、ヴェーゼル河、その他各地の沿岸區域の船舶の墓地は消失した。

造船所に於ける新建造も之に對應したものである。一九三二年に於ける造船所船舶註文數は二萬二千噸であつて、且猶これは國內註文のみにして外國よりの註文は殆んど皆無と稱しても差支へなかつた。が一九三七年の終りには以下の如き様相を示した。

即ち建造に着手せるものは内國註文三十七萬噸、外國註文三十五萬噸、更にまだ着手に至らざるものに約四十萬噸の註文がある。

軍艦新造はこゝに算入されて居らぬ。即ち、一九三二年には二萬二千噸の建造註文を受けてゐた獨逸造船所は、目下の所民間航行に對するもののみで、既に百二十萬噸の註文を受け建造しつつある有様である。

獨逸國有鐵道は、其の貨物輸送に使用せる貨車仕立數は一日平均一九三二年に比し、一九三七年は四七％の増加を見てゐる。貨物輸送による收入もこれに對應し、即ち一九三七年は一九三二年に比し七〇％の増收、又輸送貨物の増加率は七八％、更に噸糎（一噸のものを一糎輸送する運賃）の増率は八三％に至つてゐる。

國有鐵道所屬の貨物自動車現在高は一九三二年の二百十七臺より、一九三七年には三千百三十七臺に増加、貨物自動車線の數は五十三より千百三十一、自動車線の延長は千三百二十一糎より四萬六千七百十五糎に増加した。急行旅行車の交通も以上と同程度の増加を見てゐる。

獨逸國有鐵道所屬バスによる旅客輸送總數は一九三二年の四十八萬人より、今日は二百五十萬人に増加した。

國鐵の業績は上昇せる運輸噸糎の數値によりて示される、噸糎數は千七百八十億より二千七百四十億即ち五四％の上昇である。國鐵交通の他のすべての領域に於ても同じ様な上昇が見られ、其の決定的證左となるものは其の收入である。一九三二年の總收入二十二億三千四百萬馬克が一九三七年に

は既に四十四億八千萬馬克に増加してゐる。

獨逸國遞信事務増進も亦獨逸經濟生活の力強き一般興隆を保證するものである。

取扱郵便總數は一九三二年の五十六億通より、一九三七年の六十四億通に増加し、小包總數は二億二千七百萬件より二億九千六百萬件に上昇した。

郵便振替口座數は百二萬千八百十九より、百十一萬九千三百七十二に増加、一ケ年平均振替貯金高は四億六千百萬馬克より、七億二千九百萬馬克へ増加。振替口座拂込件數は七億三百萬件より九億四百万件へ、振替口座拂込額は千三十億馬克より千六百十億馬克へ上昇。公衆電話施設數は二百九十六萬より三百五十七萬八千、飛行郵便物は十三萬五千疋より三百六十萬疋へ上昇。全收入合計は十六億五千八百萬より十九億四千萬へ増加。

遞信省營自動車線による旅客輸送數は一九三三年は六千萬人、一九三七年には八千萬人以上に及ぶ。

航空郵便路の延長は三萬一千紮より六萬二千紮に増加を見、其の一年間飛行距離は九百萬紮より千八百萬紮へ増加。更に飛行旅客數は十萬人より三十二萬六千人に増し、飛行機發着場數は一九三三年以來其の數約百以上の増加であるが、更にこれに交通及び工業用目的の爲の六十二の着陸場を加算することが出来る。

一九三三年以來獨逸飛行スポーツ協會は其の會員數六十萬を數へ、一九三七年にはナチス飛行家團は會員數三百萬人を有し内五萬人は飛行士にして、發動飛行學校六、グライダー飛行學校二十二を有し、發動飛行機四百臺、グライダー四千七百臺を有してゐる。

更に獨逸道路建設の發展は更に著しきものがある。道路維持及び建設のため支出したる額は獨逸國自動車道路をも含めて、

一九三二年 四億四十萬馬克

一九三三年 七億八百萬馬克

一九三五年 十三億二千五百萬馬克

一九三七年 十四億五千萬馬克

二千三百料が此の建設のため提供された。獨逸國自動車道路網は世界最大の工事であつて、既に土壤移動量二億四千立方米に及びバナマ運河の建設工事を遙かに凌駕してゐる。

國道に關しては、一九三四年より一九三七年に至るまでに、延長約一萬料に涉り車道は六米、全幅員は八米乃至十米擴張せられた。

七千五百料は重鋪裝又は中重鋪裝が施された。改造又は新造されたる橋梁數三百四十四、百の軌條踏切は除去せられ、迂回道路が造られた。

同時に一等及二等縣道も延長六千軒に涉り擴張せられ内重鋪裝又は中重鋪裝せるもの五千軒。右道路のために橋梁の改造又は新造されしもの其の數六百、同じく無數の踏切は除去せられ、迂回道路が建設された。

大橋梁の架設されしもの

ライン河

六

エルベ河

四

オーデル河

二

ドナウ河

三

ヴェーゼル河

一

ブレーゲル河

一

其の他自動車道路のため約三千四百の架橋がなされた。

これ等諸般の領域に於ける業績が素晴らしく發展せる如く、住宅建築に於ける活動もこれに對應して上昇を示してゐる。即ち一九三七年には既に三十四萬軒の家屋が新築せらるるに至り、こは一九三二年に比し二倍以上のものである。

ナチス政權獲得以來總計百四十萬軒の家屋が住宅市場へ提供されたことになる。

余は今此處に吾等の偉大なる組織と社會救護事業に關し二三を述べて、以て以上の補足をなさんとする。

獨逸勞働戰線の個人會員は一九三七年に於て千七百九十七萬人、これに團體會員を加算すれば其の數二千萬を越ゆる。但しこれは全國文化會議所及全國農業生産協同體の會員は省いたものである。

これ等勞働者の福祉のための業績を述べよう。

政權獲得以前の賃率構成は以下の如く要約し得る。

賃率協定一萬三千、利害關係諸團體の妥協、賃率形式主義、勞働條件の標準化、協定率以下の賃金供與、勢力闘争即ちストライクとロツクアウト、一般的不満。

ナチス建設事業五年後は、

賃率規定七千、權利關係の明瞭化、賃率形式化排斥、最低勞働條件の規定、能率による賃金制度設定、ストライク、ロツクアウトに依る階級闘争消滅、協定率以下の賃銀供與停止、總ての社會的利害の效果的保護、獨逸勞働戰線に依る社會的調整、全體に亘る社會的平和。

政權獲得以前には休暇狀態は次の如くであつた。

主として勞働者自身の負擔に據る休暇、法規に定められたる休暇要求權の缺如、最初の休暇供與までの期間過長、たかだか五日間以内にして休暇期間不充分。

ナチス建設事業五年後、

すべての勤勞同胞に休暇中も賃銀の支拂を受ける權利を與ふる事、最長休暇期間の廢止、最短休暇期間制度、職業、年齢、就職年限並びに勞働難易等の差等による等級的休暇制度、休暇供與までの期間短縮、即ち通常第一回休暇許可まで六ヶ月、若年者に對し十八日迄の休暇期間延長、季節的勞働者に對しても亦休暇供與をなすこと、クラフト・ドルヒ・フロイデの安上りな旅行に依る健康増進。

政權獲得以前に於ける賃金政策は次の如くである。

賃金は「勞働」なる商品の價格と等しきこと。形式化せる最高賃金、失業に依る賃銀の低下、協定率以下の賃銀支拂、個別勞務支拂と能率低下、收入の不安定、休暇による減收。

ナチス建設事業五年後。

勞働權の確保、最低收入の保證、生産増加に伴ふ賃銀の増加、賃金と能率の關聯緊密化、收入の安定、健全且誠實なる個別勞務支拂制度、家族負擔調節の處置、休祭日中の資金支拂。

國民保健に關しては次の事に論及せねばなるまい。即ち、

生産人の保健は國民及び國に重大なる意義あることを認識し、獨逸勞働戰線の方面より此の問題に對し特に注意が拂はれてゐる。以下に述ぶる數字がこれを示してゐる。

一九三三年に於ける工場審査及工場調査件數約一萬七千、從業員の健康診斷數は、疾患治療のなされたものを含めて約六十二萬件、工場視察回數約三萬六千回、企業者が社會的條件改善のために支出したる金額は一九三三年以來六億馬克を超過、しかしこれ等は以前はいづれもストライク、ロックアウトにより浪費せられたるものである。

改良せられ若くは新設せられたるものを個別的に示せば次の如くである。

作　　業　　場	二萬三千
仕　事　　場	六千
食　堂　及　控　室	一萬七千
洗面室及更衣室	一萬三千
勞働者親睦俱樂部	八百
スポーツ施設	一千二百

更に三千六百の船舶に於る船員用船室設備の改善、又村落美化運動に参加しつつある村落數五千を數ふる。

獨逸國民教化事業は勞働者をして約六萬二千の催し、即ち工場、都市、村落に於る個別講演、連續講演、國民教化事業、又は勞働協同會、參觀、修學旅行、展覽會等の訪問參加を可能ならしめたので

ある。

これ等催物に参加せる人員數は一九三六年に於て一千萬人を超ゆるものがあつた。演劇開催數四萬八千を通じて觀劇者約二千二百十萬人、更に映畫上映數四萬七千、その觀覽人員數約一千八百六十萬人、音樂會數一萬一千回、右聽衆數約五百六十萬人、工場内展覽會一千三百回、右參觀者約三百三十萬人。其の他十二萬一千回の文化的催物に於て合計五千萬人を超ゆる參加者を見た。

加之十八萬以上の收容力ある約六百の勞働者協同宿泊所（國有自動車道路合宿所、アルプス道路合宿所、國防工事合宿所等）が經營せられた。更に國軍關係者及勞働奉仕團參加者のため三百の特別催物が行はれ、其の自由時間を慰勞にすごせし人員數十九萬人。水陸旅行等參加者數七萬四千人。國軍と勞働奉仕團の間に三十四回の共同催物行はれ、二十二萬五千人の參加を見てゐる。軍樂隊、勞働奉仕團の音樂等による工場演奏會數四百八十、其の參加者約五十萬人。即ち自由時間を有効に利用し得たる者の總數は二百萬人以上に及ぶわけである。

スポーツの領域に於ても、其の練習時間延長は百萬時間を越へ、其の參加者は約二千百萬人に及ぶ。海水浴場でスポーツ的保育を受けたる同胞は其の數三十五萬。然してスポーツ技術指導は四千五百に余るスポーツ教師の手に委ねられてゐる。かくの如く勞働者のために考慮せられたるは未曾有の事である。

旅行、遠足、休暇利用法も非常なる發展をなした。海路旅行はノールウエイ、マデイラ、アツォーレ、伊太利へと及び、以下の數字は更に其の概觀を示すであらう。

一九三四年以來行はれし所を見れば、總計航海數三百八十四回、參加者四十九萬人、陸路旅行六萬回以上、參加者一千九百萬人、遠足十一萬三千回、參加者三百萬人。獨逸勞働戰線には九隻の海洋汽船備へられ、内四隻は同戰線所有船である。クラフト・ドルヒ・フロイデ艦隊に使用せられたる金額は今日迄で二千百萬馬克を超へ、該團の爲の經費總額は投資及び船舶建造費を除きて一九三四年以來約七千七百百萬馬克に達してゐる。一九三四年該團體創設以來催物に參加せる人員總計一億五千五百萬人にのぼる。

ナチス施設中全く斬新にして純ナチス的なものは勞働奉仕である。一九三三年には志願制勞働奉仕として、大勞働奉仕團約十二、小勞働奉仕團約百を數へたが、一年半の後には新勞働奉仕の建設は大體に於て確立された。現在では年二回交替の六ヶ月期間の勞働奉仕をなすもの其の數各約二十萬、女子勞働奉仕に於ては參加婦女子數二萬五千を數ふ。然して一九三三年以來勞働奉仕訓練をなせるもの男子百八十五萬、女子十二萬となつてゐる。

更に亦獨逸青少年指導も驚嘆に價すべき様相を示してゐる。政權獲得以前には獨逸青少年は無數の團體に分れ、全く雜然たるものがあつた。併し今日に於ては全獨逸に唯一の青少年組織あるのみであ

る、即ちヒトラ・ユーゲントとヒトラ少女團これである。一九三七年には團員數實に七百萬人以上、

地方部及地方支部指導者 九名

地區、小地區及小管區女子指導者 五十九名

地區支部、地區分會指導者 九千名

支部男女指導者 五十五萬五百名

が此の最も力強き現代的青少年運動にたづさはつてゐる。

全國職業競走參加少年少女數、

一九三四年 五十萬人

一九三五年 七十五萬人

一九三六年 百三萬六千人

一九三七年 百八十萬人

他の國々に於ては青少年は勞働反對の煽動をうけてゐる。

全國スポーツ競技も亦類似の様相を呈してゐる、即ち其の參加者は、

一九三二年 百六十萬人

一九三四年 二百五十萬人

一九三五年 三百七十萬人

一九三六年 五百八十萬人

一九三七年 六百十萬人

ヒトラー青少年海兵團は團員四萬五千を有し、ヒトラー青少年モーター團は團員六萬人を擁する。グライダー部門において飛行訓練協同作業を受けたる青少年團員數五萬五千。然して七萬四千の青少年がヒトラー青少年航空團を組織し、一九三七年のみにてもグライダー飛行試験に合格せるもの一萬五千を數ふる。

小口徑射撃に於ては規則的教育を受くるもの今日百二十萬人、これの指導にあたるもの七千。

目下ヒトラー・ユーゲント専用として建設中の合宿所は其の數千四百、學校も亦多數建設中である。青少年宿泊事業に於ても一九三七年に於て宿泊所數二千を超へ、之の利用回數は約八百萬に及ぶ。此の宿泊數は全世界の青年宿泊所の宿泊數の八倍以上の多きに達してゐる。

これ等青少年の健康に關しては、ヒトラー・ユーゲントに於て醫師四千人、男女齒科醫八百人、藥劑師五百人活動し、これ等に對し少年看護長四萬、事故救急に奉仕する少女三萬五千が助手の役目をつとめてゐる。個々の青少年少女の健康保健は保健局より差向けられたる三萬人以上に及ぶ醫師により

處理せられる。年に一回全獨逸青少年の保健點呼（體格検査）が行はれるが醫師の診斷を受くるものは目下年に百萬人を超へてゐる状態である。

大社會事業中最も目覺ましきものは獨逸冬期救濟事業である。其の（資金募集の）収入左の如し。

一九三三年 三億五千萬馬克

一九三四年—一九三五年 三億六千萬馬克

一九三五年—一九三六年 三億七千萬馬克

一九三六年—一九三七年 四億八百萬馬克

一九三四年よりの合計總額は即ち十四億九千萬馬克。

こは自發的喜捨の意味で一九一二年—一三年の有名なる國防獻金を三億馬克超過してゐる。此の力強き社會救濟事業は更に「勞働の犠牲」財團より一千萬馬克以上、藝術家報恩財團の寄附三百五十萬馬克、ゲベルス財團により百萬馬克が補充されるのである。

ナチス政權獲得以前には此の巨大なる事業に較ぶべきものは何一つなかつたのである。

此の全般的興隆に獨逸國民が非常なる關心を有してゐることは、演劇、映畫の催しの觀客數が常に上昇を示してゐること、及びラヂオ聴取者數の激増に依つて窺ひ得る。

一九三七年のみにても十五の政治展覽會あり、其の入場者數は一千八百萬を數へた。ラヂオ聴取者

數は一九三二年―四百二十萬人、一九三七年―九百八萬七千人。聽取收入高は一九三二年の九千三百萬馬克より一九三七年には二億四百萬馬克に増加。

ラヂオ聽取器製造高は

一九三二年 百一萬一千個

一九三七年 百六十八萬一千個

此の他に大衆（廉價）聽取器四十七萬五千個。

即ち政權獲得以來、聽取器總數一千五十萬個である。

獨逸常設演劇場數は

一九三二年 百九十六

一九三七年 二百六十三

舞臺關係從業者數は

二萬二千人より三萬七百三十人に上昇。

余がこゝにこれを言ふは、獨逸は吾が政權獲得以來文化生活低下せりと稱する、惡意ある外國チャリナリズムの主張に反駁せんために外ならない。

獨逸文化發展の全様相は全世界の評價によつて最もよく知り得る。無數の褒賞、名譽賞狀、金メダ

ルがこの評價の外にあらはれた證據である。

グラフィック發兌總部數は一九三七年までに九百五十萬部より千五百萬部に上昇。獨逸訪問外國新聞記者數も亦一九三二年の八百七十二名より一九三七年には二千九百七十三名に増加してゐる。吾が獨逸國の狀態を彼等の知らざるは何故なりやと反問したい位である。旅行者の往來を見るならば、宿泊届出數は一九三二年に於て千四百三十萬件、延宿泊數四千九百萬なりしものが一九三七年には届出數二千七百萬件、延宿泊數一億三百萬に達してゐる。

外國人數は一九三二年に於て宿泊宿所届出數百一萬四千件、一九三七年には其の數二百四十萬件宿泊數に於ては二百六十七萬三千より七百萬に増加を見てゐる。英國人の口から蘇聯を旅行したるものゝ總數をきいて見るのも亦一興であらう。

獨逸映畫の觀客數は一九三二年に二億三千五百萬人なりしが、一九三七年迄で其の増加は三億七千六百萬人となり、其の收入額は一九三二年一億七千六百馬克より、一九三七年は二億九千萬馬克に至つてゐる。

今余は、莫大なる數值數量の中よりたゞ小數の記錄と年月を述ぶるに止めたが、此の獨逸生活興隆の様相報告を終るにあたり、其の最後に獨逸出生數を擧げ得ることはこの上なく欣快とするところである。

即ち出産數は一九三二年には九十七萬人なりしものが、其の數は年々増加を示し、一九三七年には百二十七萬人に達したのである。

ナチス政權獲得以來其の總計に於て獨逸國民に百十六萬の小兒が與へられたのである。

これ等は吾等が獨逸婦人を誇り得る理由たるのみならず、吾人に對する神の攝理に感謝すべき理由でもあるのだ。

類例なき平和的な活動に加ふるに、此の五年間に吾が國民に百十六萬の稚き男女同胞が與へられたのである。彼等こそ吾が國民のナチスの興隆及神の恵みの巨大な働らきの生きた證明である。

議員諸君、獨逸國會の諸君！

余は此處に、誠に簡單乍ら無味乾燥の數を並べて、諸君及び獨逸國民に其の規模に於ても結果に於ても並ふものなき建設事業の記録的證左を示さんとしたのである。

余及び余の協力者又吾等と共に全獨逸國民は、あらゆる經濟生活の領域に於てかくも偉大なる業績が爲し果されたる此の五年間に對し誇りを持つてよいのである。

これに比すれば、ナチス建設事業に對しては其の愚鈍或ひは惡意の片言を以て報ゆる以外の事をなし得なかつた者等の批評たるや實に笑ふべきものでないか。吾人は亦何等な所もなく徒に口角泡をとばすを職業と心得てゐるもの以外、吾等獨逸國民は等しく此の事業に身を捧げて居ることを知つて

居る。事實虚偽を並べたてる外國ジャーナリズムに關する限りは、若し彼等の絶へざる煽動によつて諸國民の平和が攪亂さるゝことなきに於ては彼等が好んで信じ易き讀者に何を提供するも、吾等獨逸人にとつては全く問題とするに足らない。

何故ならば吾等の業績夫自體はかゝる事によつて何等傷つけらるゝ所はなく、確固不動のものであり口先や虚偽で葬り去られることもない。其の他の點に於てもこれ等の國際的使噓や中傷者に何等の成功も許さぬ様に、吾人は事前考慮し又其の危險の豫防もしてゐた。

と言ふのは、余は今議員諸君に獨逸の經濟、社會、文化三方面の發展を述べたが、これは諸君及び今これを聞いてゐる幾百萬の國民に必ずや十分なる印象を與へ得たものと信するのである。乍然更に余は吾人のなし遂げしことの補充として史上何時かはより高き評價を獲得すると思はるゝ業績につき語る必要を認むるのである。

何となれば、吾等は此の同じ五年間の中に、内面的に分裂し不安なりしたため卑屈にも且無力であつた國民から、政治的には一致協同し、最も強き自信と誇るに足る確信に滿てる國民的肉體を形成したのである。

更に就中、吾人は獨逸國民に武器を與へたのである。これ即ち惡意ある使噓をなす國際的ジャーナリズムの吾人の良く知る企圖も、獨逸國境に於て鐵の如き防遏を喰らはんことを吾人に保證するもの

であるのだ。

余は此の方面の業績は經濟の領域に於て達せられたるものより、より大なるものと信ずるのである。何故なれば、余には、此の方面に於て屢々征服せねばならなかつた先入見は、すべての經濟的障害よりも一層有害と思へたからである。

ナチス的教育と吾が國民體の形成の結果が如何に大なりしものなるかは、此の現象に對して大部分の國外批判家が全く茫然としてゐる事實によつて最も明瞭になるであらう。

諸君は最近數週間、ある種の外國ジャーナリストより出でたる吾人には理解し難き噂を耳にしたに違ひない。一九三八年に於て彼等が言ふ所は、ナチスの影響は遂に外務省を占取するに至つた、或は目下國防軍と——これ等哀れなる痴れ者がまご／＼してゐる間に、獨逸には國防軍が出来上つたのであるが——其の國防軍とナチス黨の間に確執がある、或ひはナチス「翼」は經濟を其の支配下に置かんとしてゐる等其他類似のことを言つてゐる。

吾がナチス革命の本質を辨へざるも甚しきものではないか。

五年前に余が政權を獲得したりし時、余は既に拔群強大なる獨逸政黨の指導者であつたのだ。今日では所謂民主國に於ても余が當時有してゐた選舉人數を獲得し得る如き如何なる政治運動もない状態である、それも、吾等を不倶戴天の敵の如く憎惡する政體が絶へずテロと壓迫を加へてゐたにも拘ら

す吾人の政黨はかく強大であつた。

吾人の思想を獨逸國民に強制するのは吾等の使命ではなかつた。吾等の目的は、此の思想界の中に全獨逸國民を一元的に結合させんとするにあつた、其の意は、嘗て獨逸の四分五裂狀態、延いては獨逸の無力無能の具現或ひはシムボルとも言ふべき、あの當時の制度を全部除去するにあつた。

一方に怠惰と非合理、他方に惡意ある目的を以て、獨逸國民の多種多様な内政的生活即ち其の政治的に慘たる四分五裂狀態は、これ獨逸的態度であり、眞の獨逸的考へ方であると國民を説得せんとて、彼等は互に相競つてゐたのである。彼等に依れば、民主的に分裂し、全世界の面前に無力の姿を曝した獨逸國は、一の指導、一の意志の下に堂々と一致和合、且武裝せる獨逸國民よりも、より相應しき獨逸國民及獨逸精神のあらはれなりと言ふのである。彼等は政治的且文化的「獨善生活」を口にし、これに依つてたゞ獨逸國民の分裂、吾がライヒの困窮、従つて全獨逸國民の權利剝奪を永久化してゐたのである。この呪詛に反對して防禦線を敷き、ナチス協同體的態度の新しき理想を貫徹することは恐らくは此の上なき至難の事業であつたのだ。但し今や余は此の大事業の成果を疑ひ得るものありとは信じないのである。

余にとりて最初に必須なりと考へられたるは、吾が國民より喪失せる自己信賴の念を再建することであつた。此の目的のために余は多くの獨逸人には或ひは不可能に思はるゝ如き行動を屢々要求せね

ばならなかつた。

たゞ吾等以前に政權を握つてゐた政府に依つて計畫的に助成せられ、軍事的のみならず意志的の敗北主義へと導いたあの精神に抗戰することが必須不可缺であつたのだ。獨逸民族は成程尊敬すべき民族である、併し乍ら勿論、其の素質と就中其の價值の偉大さに於ては、所謂大民主國の國民に及ばないとは最近屢々耳にしたことである。

又、吾が國民は他國民の仕事を靜觀し、それを尊敬することの中に寧ろ其の未來を見るべきであつて、自らかゝる仕事に手を出して自己の力量に試練を加へるべきではないとは屢々吾が國民に對し言はれたことである。

當時の指導統治は、其の自らの肉體的乃至精神的懶惰を辯護するため、精神及び身體の惰性に訴へる所があつた。生存鬭争には餘りにも虛弱なりし故に、國民の生活目標に制限をつけたのである。然して國民が人工的に狹められたる人生の使命で結局満足し得る如く國民の自己に對する信念を破壊したのであつた。これに對し余に最初の且つ最も重要な使命と思へたることは、余に與へられたるあらゆる領域に於て、又あらゆる機會ある毎に、必ず獨逸國民を其の自己意識にまで引戻すこと、自己の有爲さに對する呪はしき疑惑を國民の心より驅逐すること、而して國民を再び矜恃ある且自己意識に目覺めたる國民になすことなどであつた。さればこそ余は屢々要求を出し、其の遂行には最高の業

績を求めたのである。余は過去に於ても又現在に於ても以下の事を望んでゐるのである、即ち獨逸國民は其の有爲有能さの實例及其の仕事の結果により世界の他の諸國民に比し第二流又は價值に於て劣る所なきものたるのみならず、あらゆる實際的價值に於て斷じて遜色なきこと、從つて最高の意味に於て對等であり、從つて同等の權利を有すべきことを自覺すべきことこれである。

故に余は獨逸國民を齷齪たる考へ方に導くにあづかつて力ありしすべての制度を蛇蠍視し、これを除去したのである。たゞ小乘的精神のみが、聯邦諸小邦を必要としたのである。たゞ彼等のみが、大問題に打突つて自己の限界を暴露するを避けんがために、當時の聯邦諸邦の所謂「價值」なるものをつくり出したのである。大國家に奉じて第二流たらんよりは村落に留つて第一流たる方がよいと言ふあの恐るべき所見は、大協同體に於て第一の役割を演ずるにはあまりにも無能なる輩、其のくせ第二流第三流の地位に甘んずるにはあまりにも野心あり且腐敗して居り從て自己のあらはれが數に於て支配的立場を得んがため、好んで國民を最小の斷片に分裂せんとする輩、かゝる徒輩の信條と化したのである。

若しもナチス革命が従前の諸邦及就中其の所謂國家主權的根元の上位に全體としての國民の利害を置かざりしならば、ナチス革命は中道にして止んだであらう。政黨は當然消失せねばならなかつた、のみならず各邦の邦議會も長い間腐敗して無用の物と化してゐたのだ。獨逸國には唯一の國家主權あ

り得るのみである。そは獨逸國民の全體より出づるものにして、其の一部より出づるものではない。吾人は、自主獨立の現象としての各邦及固有の主權保持者たる各邦の議會を止揚することに依て、全體としての獨逸國民の眞の主權に對する前提を創り得たのである。

獨逸國の將來は、獨逸國が獨逸國民の至上の且唯一の代表者となりし時はじめて保證を與へられるのである。一民族一國家の鐵則は、獨逸國をして數多の個別國家的束縛の不隨狀態より解放し、其の結果今日各邦内の獨逸國同胞に、嘗て可能なりしよりも遙に高い利益を齎すが如き力の發展を招來したのである。

今や始めて吾が國民的存在のあらゆる領域に於て創造的大計畫の實現の前提たるかの眞實偉大なる問題を課すること及何よりも先づ物資的手段を確保することに成功した。

かくてナチスは、ナチス以前數世紀忽せにせられたことを數年にして取戻したのである。然してナチス以前數代に涉りし罪惡を償つたのである。かくして吾等は國內的の世襲的且政黨政治的分裂を除くする事に依り今日既に全獨逸國民の誇りと自己尊重の基礎たるかの偉大なる問題を課し、又其の一部を解決し得るに至つたのである。

大規模の交通路、龐大なる工業建設、無比の都市計畫及建設事業、巨大な橋梁は今日既にあるものは設計中、あるものは着手せんとし、或ひは一部既に完成せる狀態である。

五年の後に、獨逸人たるものは、全國民を此の上なき誇りを以て滿たすに足る諸事業の成果を認識するに至るであらう。

これ等事業のためには、併し第一に、議會主義的民主政治及軍事的獨裁政治と離るゝこと遠き一の國民及國家指導の構成が必要である。獨逸國民はナチスに於て、政黨として國民を動員せるのみならず、就中國民を組織化し、それも淘汰の最も自然なる法則に據り確實なる政治的指導の繼續を永久に保證する如く組織立てをなした指導統治を保有したのである。然してこれを最近五年間の歴史に於て最も誇るにたる一章をなすものであらう。

ナチスは、狹量なる國際的三文記者連の信する如く、二月四日に獨逸國外務省を征服したのではない、否、ナチスは余が五年前に宰相してヴィルヘルム廣場の大統領官邸を辭去せし其の日より全獨逸國を、根本的に、全面的に手中に收めたのである。當國家中にはナチスならざる制度は只の一つも存在せぬ。特にナチス黨は此の五年間に於て、國民をナチス化せしのみならず、ナチス自身の爲にも、未來永劫に自己保存と永續とを保證すべき最も完成せる組織を造り上げたのである。

此のナチス革命の最大の保證は國家指導の見地より見れば内外共にナチス黨に依る獨逸國及其の總ての制度施設の完全なる把握に存する。世界に對する其の防衛は新ナチス國防軍に存してゐる。

黨員諸君、十八年前の今頃余ははじめてナチス・プログラムを宣言した。當時、獨逸國慘たる敗北

の時、此の上なき無力化、想像も及ばぬ悲境の時代に、余はナチス黨の目標として就中ヴェルサイユ條約によつて吾人に強制せられたる傭兵制度の廢棄及び強大なる獨逸國民軍の創設を宣言したのである。

無名の一獨逸前線の兵士として余は此の大膽なるプログラムを呈出した、十四年間余は内部の敵、外部の惡意に滿てる世界に對し、反對者のさ中に戰つた、然して五年間に於て余は今やこれを實現したのである。余は此の新獨逸國の無比の大事業に關し仔細に涉る必要は認めぬが、たゞ以下のことは述べんとする。

獨逸の平和の陸軍は配備された。力強き獨逸空軍は吾が故郷を護つてゐる。新海軍力は吾が沿岸を守る。吾が一般生産の著しき上昇の中に無類の軍備擴張は可能となつたのである。

若し今日外國の物議り連中が内心安心するに役立つならば彼等が勝手に獨逸國に於て國防軍とナチスの間はどんな確執が在ると信じた所で構はない。この種の内面的自己満足は吾人は何時でも喜んで彼等に與ふるものである。併し彼等が之より何か他の結論に到達せんとするならば、彼等に對して以下のことを告げる。即ち

獨逸國にはナチス國家對ナチス黨、又ナチス黨對ナチス國防軍の如き問題は全然ないのである。吾國に於ては責任ある地位についてゐる者は何れも皆ナチスである。

男たるものは何れも其の頭のナチス至上權の印の下に立つてゐる。國中すべての制度は最高政治指導の命令下にあり而して全國の全制度は、此のナチスの獨逸を代表し、必要なる場合には最後の息を引とるまで祖國を護ると言ふ意志と決心の中に誓ひを立て、一致團結してゐるのである。

吾人は嘗て獨逸國に於ける最惡の予言者たりし他の要素に依つて迷はされてはならない。黨は獨逸國を政治的に指導し、國防軍は獨逸國を軍事的に防衛する。此の國に於ては制度と名のつくものは皆各々其の使命を有するので此の國の責任ある地位に立つ者にして此の國の全權を有する指導者は余であり、國民が其の信賴に依つて余に對し至る所に於て國民を代表すべき權利を委任したることを責任ある地位にあるものにして疑ふものは一人もない。

かくて獨逸國防軍が此のナチス國家に盲目的に忠誠であり盲目的に服従せる如く、此のナチス國家及其の指導政黨も亦吾が國防軍に對し誇りをもち且つ幸福に感ずるのである。

吾人は國防軍の中にこそ獨逸人を青年時代より其の指導下に置くナチス教育の最高峰を見る。彼が政治的組織體に於て政治的及精神的方面に於て獲た所のものは、此處に於て兵士への養成、教育に依つて補足されるのである。

余は此の際、國防軍即陸海軍及空軍の管理者として、此の驚異すべき機關の建設に當り余を助けた人々を想起せざるを得ない。

余は、最初の大建設終了後は、激務を離れて私生活に入り其の害された健康を勞はり度いどのフォン・ブロムベルク元帥の希望を許容せざるを得なかつた。併し余は此の場合から、新獨逸國及び其の國防軍に對するこの武人の無限に誠實且忠誠なる業績に對し、余の、又獨逸國民の感謝を捧ぐるものである。此の業績は此の獨逸國建設の歴史より決して切り離されることはないであらう。同じことがフォン・フリック元師の活動と其の素振らしき實績に關しても言へる。更に吾が政治的及軍事的指導階級の若返りの過程に於て最も崇高なる精神を以て政治、軍事の爲に後進の途を開いた人士に付ても同様である。

吾人は獨逸國防軍のかくも迅速なる再軍備に對する前提として、舊獨逸國防軍の十萬の軍隊がなせし所を知つてゐる。乍然吾人は又此の新たな大問題は其の處理のために、若き力の絶へざる流れを必要とすることも知つてゐる。更に何より、將來の問題は、從來必要なりし以上に獨逸國の政治、軍事兩方面の力のより強き團結を要することを知つてゐる。故に余はフォン・ブロムベルク元帥の去りし後、余の命令權を軍の三部に直接に及ぼし、國防軍司令部としての國防局を余に直屬せしむるに決心せるにあたり、吾人がこれに依り最も短日月の中に吾が軍事的勢力の、今日一般情勢が必要とするが如き強化に達せんことを望むものである。余は本日國民に選ばれたる指導者として、獨逸國民に確言したきことがある。即ち、

吾人は平和を愛すること大であるが、吾人の名譽及び譲渡し得べからざる國民の權利をも亦同様に重大視する。余は平和の擁護に勞力するものであるが、余の確信に依れば此の不安なる時局に於て平和を守るに最も確實且效果的な唯一のもの、即ち軍備が弱められ、又は獨逸國民の手から奪ひ去られることの再びなき様同じく力を盡すであらう。

余は全世界に對して獨逸國民は心より且深く平和を愛するものなることの保證を與へ得るが、併し余は此の平和愛は無力なる諦め及び名譽を思はぬ卑怯とは何等關係なきことに付一點疑の餘地を残さざらんと欲する。將來萬一國際的使噓又は中傷が吾が國の平和を破壊する如きことあれば、鋼鐵と鐵が獨逸國民及び獨逸の國土の護りとなるであらう。

然る時は全世界は一瞬にして、此の國、國民、政黨、國防軍が如何に一の精神に依つて滿され、一の意志の下に熱狂するかを見るに至るであらう。

更に余は尊敬すべき獨逸將校團を國際的ジャーナリズムの誹謗より特に辯護せんとする意志はない。これは亦無用のことである。何となれば、ジャーナリストには實に二種類の人種が存してゐる、即ち眞實を愛するものと他方虚つきの下等な詐欺漢、國民を欺くものと及戰爭を使噓するものこれである。それに反し獨逸將校にはたゞ一種類あるのみである。

黨員諸君！ 諸君は今、ナチス革命及びナチス黨の指導に依り獨逸國に與へられたる、力強き歴史

的興隆の姿を見た。此の事業の偉大さは更に吾人を馳つて將來の策を講ぜざるを得ざるに至らしめる。

將來に對する經濟プログラムは既に諸君の御承知の所である。吾等のとるべき途はたゞ吾等の勞働及其の成果の最上の向上に在るのみ。獨逸國民は生活要求の高い國民である。若し世界がジャーナリストに影響されずして、卓越せる政治家の影響を受けるものならば、世界は此の事實に對し感謝するに違ひないであらう。何故なら、ある國民の生活要求、文化的要求が大なれば大なる程、其の平和に對する憧憬も大なのであるから。たゞ平和のみが、高度の生活程度の要求を充し得べき事業の完結を可能ならしめ得る。

吾人の經濟狀態は困難である。但しそれは、ナチスが獨逸國を支配してゐる爲ではなく、一平方糎に百四十人の人口を有する爲である、諸外國民の如く大なる天然資源を有せざるが故である、殊に吾等には豐饒なる土地が不足してゐるためであるのだ。今日若し大英帝國にして突如解體し、英本國は其の自己の本土にのみ頼らざるを得なくなつたとしたならば、恐らく彼等は直ちに吾人に課せられたる經濟的使命の困難なることをよりよく理解するに至るであらう。獨逸國が此の問題を解決したる事實及び其の方策は、それ自體一の奇蹟であり、吾人が眞に誇りとするに足る所でもある。若し一國民が何等の金準備も外國爲替も有せず、しかも右はナチスが統治を行へるために非ずして、其の以前に非

ナチスの、民主的議會主義的國家が十五ヶ年間に涉り貧欲なる世界各國に掠奪せられたるためなりとせば、又若し一國民が一方料に百四十人を養はざるべからず、しかも何等植民地よりの補給もなしとするならば、更に亦、若し一國民が數多の原料に缺くる所あり、クレディトによる欺瞞的生存を續くる可能性もなく、且意志もなしとするならば、若しかかる國民が五ヶ年間にして失業者を零にまで減少し、且其の生活標準を維持せるのみならず、寧ろこれを改善せしめ、しかもこれ等すべては皆自力を以てなしたりとするならば、若し一國民がかかる奇蹟を實現したりとするならば、然らば經濟的に最大の前提を有するにも拘らず、自國の失業問題すら解決し得ざる輩は少くとも沈黙して然るべきである。

將來に於ても亦獨逸國民をあらゆる妄想より守護するは吾人の使命である。其の最も有害なる妄想は勞働によらずして創造又は生産されしものを享有し得ると信ずることである。換言すれば、將來に於ても、都市農村の獨逸人各個に對し、勞働の價值は常にその得る報酬と同價值ならざるべからざるを知らしむるは吾人の任務である、即ち、

農民は其の生産品と引換に都會人が豫め改工せしものを取得し得るのみであり、都會人は農民が其の土地より取得したるもののみを享有し得る、かくて各人は、彼等が生産せるものを相互に交換し得るのみ、貨幣は其の際單に媒介の役割を演ずるに過ぎない。金錢はそれ自體獨自の使用價值は有しな

いのである。獨逸に於て支拂はれる各一馬克はそれぞれ一馬克丈餘計勞働をなしたことを前提としてゐるのである。然らざるときは右馬克は何等購買力を有せざる空虚なる一片の紙片に過ぎない。然れ共吾人は、獨逸馬克は眞實の貨幣であつて、何人かの同じく眞實の勞働に依る生産品に對する眞實の表價物たることを欲するものである。

右は唯一且現實的な通貨保證準備なるが故に、従つて眞實の通貨準備である。これに依り吾人は金及外國爲替なしに獨逸馬克の價値を維持し得たのであつた。而してそれに依り、金及外國爲替が漲溢せる諸國が、其の通貨引下げの己むなきに至れる時代に、獨逸貯蓄預金高の價値を保全するを得たのである。

單に獨逸における出産率増加といふ祝福すべき事實からしても既に、吾人は生産を増加せしめて國民全體の向上せる生計を保證せねばならなくなる。一九三三年より一九三四年にかけて吾人は獨逸勞働力をそもそも先づ有效ならしめんがために、屢々最も原始的なる形體をとりしむる必要に直面したのであつた。此の年に於てはシャベルと鋤が數十萬の獨逸男子の勞働器具であつたのだ。併し吾が經濟生活の活動上昇すると共に獨逸の勞働方法にも亦漸次變更を見るに至つた。今日では獨逸は熟練工の勞働力に不足を來たしてゐる次第である。失業それ自體は殆んど完全に除去せられた。吾人は今や國民生産の新階程に入らんとしてゐる。今や原始的勞働方法を漸次改善せられたる、特に技術的に完

成せる勞働方法に替ふる使命を吾人は有するのである。然して貴重なる獨逸勞働者を益々幼稚なる勞働より解放しより高き價值を生む活動に誘導することが吾人の目的でなければならぬ。かくて最も單純なる勞働は今後高級勞働によつて製造せられたる機械に委ねらるるに至るであらう。併し此の機械への轉換の一定の制限の下に、且漸進的にのみ可能なる獨逸農村にあつては其の勞働力を一時に喪失せしめざるやう注意するは必要なことである。但しこは勞働方法の一般的完成に依つて全面的に無理をせずに勞働力不足に對處し得る様になり、従つて農村よりの最も原始的勞働力の流出を正當に防止し得るに至つて、最も迅速に達せられるであらう。

プログラムは僅か數行に涉るのみ、しかも其の實施には言ふまでもなく數年を要するものであるが、ナチスの他の總ての計畫と同じく結局は亦實現に至るに違ひない。

かゝる獨逸生産の増加に依り達せらるるもの幾多ありと雖も、獨逸領土制當の理不盡なることはこれに依り除去せらるべくもない。故に植民地領有への要求は年と共に激烈に強調されるであらう、而も其の植民地は曾て獨逸國が他の諸國より強奪せるものでもなく、又これ等は今日獨逸國民に取りては必要缺くべからざるものと認められるにも拘らず、他の諸國にとりては實質上無價值に等しきものである。

余は此處に、斯る要求をクレディットの如き形で緩和し得べしと考ふる如き希望に反對せんと欲す

る。吾人の求むるものはクレジットに非ずして、自らの勤勞によつて國民の生存を保證し得る如き生活の基礎である。必要とするものは購入するを許さるべしとのおめでたき約束の如きは吾人の特に求めざる所である。吾人は吾が國に於て單なる侮辱と解せらるる此の如き聲明は永久にこれを拒絶する。自國通貨流通範圍内に於ける高度の經濟の可能性に對し、完全なる補填を提供し得るが如き世界經濟的處方箋は存在しないのである。

議員諸君！ 諸君は目下多かれ少なかれ諸國の政府の利害關係を刺戟してゐると見ゆる國際的計畫の個々に關し意見ありとは余に期待してゐないであらう。それ等はあまりに不安定且曖昧模糊として意見を述べ難きものである。

何より諸君は總ての所謂會議に對し、余の心深く根ざしたる不信任を承知して貰ひたい、それは會議參加者に取りては或ひは興味深き談話に興奮する數時間であるかも知れぬが、それに希望を持てる人類にとつては大概はたゞ幻滅へ導くものにすぎない。

一九三三年の吾かプログラムに、若し國際世界經濟會議に依る助力が来るまで待つべきことを定めたりとすれば、今日獨逸は、ボルシェヴィズム的混沌に陥らざるまでも、恐らくは失業者數千五百萬を數ふるに至つたであらう、と言ふも過言ではあるまい。

余は亦ある自然の要求が何等關係なき政治的取引と結合されることを承服出来ぬものである。最近

獨逸國は國際聯盟再加入の可能性に關し其の見解を再検討せんとしてゐる。報道が繰返しあらはれてゐる。吾が民主的世界新聞の定見なく且つ愚昧なるジャーナリズムが明日の口にもこの事實を忘れて了ふは勿論覺悟の上で余は今一度以下の點を明らかにして置きたい。

一九一九年に於て若干の國民に平和條約が押付けられたが、それは民族協同體及び所有權に對し未曾有の暴力的侵害を結果として齎したものであつた。此の民族の國民的並びに經濟的生活運命及び生活協同體に加へられたる暴行は常套的道德論のカムフラージュの下に行はれたのであつて、それは加害者の良心の哥責を慰むるには或ひは適したやり方か知れぬが、打撃を被つた側には下等なる惡戯として作用し得たのみであつた。斯くの如き暴行に依つて領土及且人口政策的方面に於て、根本的並に徹底的の世界地圖の變革が行はれた後、國際聯盟が成立したのであつた。該聯盟は、此の狂妄なる不合理の所業を諸國民の政治的且經濟的發展の決定的終局として固定し、其の結果を地球上に於ける人間團體の生活及び境界の永遠不變の基礎たらしむるを任務とすべきものであつた。將來に於ては、過去に於て暴力をもつて成立したることを暴力を以て破壊するを禁ずと言ふ建前であつたのだ。

乍然此の人類へなされた戰慄すべき暴行の不合理を多少とも緩和せんために、將來に於て、未曾有の暴力の結果成立した狀態を正義、即ち洞察を以て改訂する可能性が少くとも猶殘されてゐたのである。

此の稍困難なる問題は更に序の様にして國際聯盟にあてがはれたのである。

獨逸國自身は最初は過去の暴行を道徳的に防衛せんとする此の崇高なる團體に加入する權利は全然なく、かの忘れ難きグスタフ・シュトレーゼマン首相の下に始めて有難き許可を受けたのである。併し議員諸君は此の制度の如何にことごとくに蹉跌したかを熟知してゐる筈である。それは最初より且後に世界最強國の二つまで脱退したるが故に國際聯盟の名に相應しからず、更にそれは正義の制度に非ず、或ひは今日鐵面皮にも主張せらるる如く、正義の原則による制度でもない、それは長年の不正より生ぜる状態を維持せんがための制度であつたのだ。

何故ならば、暴力は正なるか、或は不正なるか二途あるのみであるのだ。若し今日暴力は不正なるものとさるるならば暴力は過去に於ても亦不正であつたのだ。故に今日までの世界現状は疑もなく暴力の行使によつて成立したものである以上此の状態は即ち不正によつて生ぜし状態である。故に國際聯盟は斷じて正義の現状を擁護するものに非ずして數千年に渉る不正より生れたる状態を擁護するものである。尤も吾人は此の状態の變更さるべしとの聲をきいてゐる、更に又屢々吾人の耳にする如くんば、例へば英國の政治家は、植民地を獨逸へ返した曉に於て土民が様々の不正と暴力を蒙むる惧れさへなければ、喜んで吾人に植民地を返却する意志ありと言ふ。一九一八年に於ては國際聯盟は未だ成立せざりし故に、これ等領地は土民の承認を得ずして新しき所有者に實際上委任せられ此の横奪は

後に至つて國際聯盟に依つて道德的に追認されたのであつた。所で、ある植民地が何人かの領有に歸するは、其の土民が此の點に關し明確なる希望を表明したるとき始めて許さるべしとの崇高なる原則を植民地獲得の過去にまでも適用せんとするならば、今日世界各國の植民地は恐らくは甚だ小さくなつてしまふだらう。

之等總ての植民帝國は人民投票、殊に其の地の居住民の民主的人民投票に依つて成立したものならず、何れも露骨なる且殘忍なる暴力に依つたものである。

これ等植民地は今日では勿論今問題となる諸國の分離すべからざる要素であり、かくてこれ等はか
の世界秩序、特に民主的政治家達に常に「正義の世界秩序」と言はれてゐるものの一部をなしてゐる。然して所謂此の「正義」を國際聯盟は保護すべく委託されてゐるのである。余は此の秩序に利益を感じるものが、嘗て暴力に依つて齎された彼等の所有地の維持のため及若し出来るならば擁護のため、國際聯盟こそ好ましき道德的法廷であると考へるはよく理解出来る。但したつた今其の暴行によつて横奪された被害者も亦自ら斯るお上品な團體の仲間入をすべしと言ふは斷じて理解出来ぬ所である。然して吾人は國際聯盟に加入し居らざる故に正義の原則の爲に力を盡す覺悟なしと論斷さるゝせば、余はこれに對して斷然抗議せざるを得ない。反對に、吾人は國際聯盟は正義の制度に非ずして、寧ろヴェルサイユの不正を擁護せんための機關なりと信するが故に加入しないのである。

更に考慮を加ふべき要旨が二三附加せらるる。

第一に、吾人は國際聯盟より脱退したるものであるが、そは聯盟が其の成立意義と義務とに忠實に、吾人に軍備平等延いては安全保證の平等に對する權利を拒んだ故に外ならぬ。

第二に吾人は、世界如何なる地點に於ても國際聯盟の多數決によつて不正の擁護の尻馬に乗る意志なき故に、最早斷じて聯盟に加入するが如きことはない。而して

第三には、吾人は脱退に依り、不幸にも聯盟より實際的援助を期待し得るものと信じて之に賴り之を信賴して來た諸國民の意に沿ひ得たものと信ずる。何故ならば、吾人は、例へばかのエチオピア戰役の場合に於て、第一に伊太利の生活必然要求に對してはより以上の理解を示し、第二にエチオピア人に對してはあれ程の希望殊にあれ程の約束を與へないことをより正當と考へる。これが恐らくは此の全問題のより簡單にしてより合理的な解決を可能ならしめたに違ひない。

第四に、吾人は何か事ありし場合に、獨逸國民が何等利害關係を有せざる紛争に巻き込まるゝ如きことなかれと考ふるものである。吾人は他國の領土又は經濟的關係に關與せんとする時は、必ず獨逸國にとりて些少なりとも利益ありと認め得るときに限る。因に吾人は斯くの如き保護を他國民より期待するものではない。獨逸國は自國の利害、自國の要求に於ては賢明なる制限を附すべく決心してゐる。併し萬一何處に於てであれ獨逸の利益が重大なる危機に曝されることありとせば、かかる場合吾

人は國際聯盟の如きものより實際上の保護を受けやうと期待する所はない、吾人は最初よりそれより生ずる問題は自力で解決する積りで居る。此の點を理解して置くことは當を得たるものである、何故なれば此の事實は吾人の欲望と希望には一定の限度あるべきを知らしむる、然るに集團保證の庇護を受けてゐる諸國は遺憾乍ら往々にして其の限度を失ひ勝ちであるから。

最後に、

そして第五に、吾人は將來に於ては何等かの國際的制度に牽制されて、論争の餘地なき事實を公式に承認するを排し、思慮ある人物の行動よりは寧ろかの有名なる大鳥の習性（註、駝鳥を指す、駝鳥は危險なる時に砂中に頭のみ突込む習性あり、所謂頭かくして尻隠さざる習性。）に類似せる態度をとる如き意志は有せざるものである。同聯盟は衆知の如く歴史的或ひは經濟的必要を解すること能はず、又それより結果する要求を満たす能はざる故に、又一方には反對に諸國民の利害は、その存亡の關する限りに於て、結局は形式主義的討究より強大なる故に、同聯盟が百年も繼續するならば世界を珍妙な情勢に導くに違ひない。

何故なれば、二〇三六年にも至れば新國家の誕生、又他の國の消失も勿論可能性あり、しかもこの新局面は何等ジュネーヴに登記することなしに行はれるに違ひない。

獨逸國は嘗て國際聯盟國たりし爲、其の非合理極まる行動に参加しなければならなかつた、併し幸

なるかな獨逸國は聯盟脫退の結果急迫せる第二（註、現在）の場合には合理と公正に従つて行動し得たのであつた。余は併し今日議員諸君に、余は今や第一（註、平和條約體系）の場合にも亦必要なる歴史的に制約されたる改訂を爲さんと決心したることを告知する次第である。

獨逸國は滿洲國を承認せんとする。

余が此處に至る決心をなすとすれば、それは妄想的無理解の政治と、現實を卒直に尊重する政治の間に劃然たる一線を劃せんためになすのである。

要するに今一度繰返し總括的に言へば獨逸國は、特に伊太利の聯盟脫退以後に於ては、何時か亦此の制度に再加盟する如き考は毛頭ない。

こは他の列強との協同作業を拒否するの意ではない、其反對である。無制限且又大部分の場合實現不可能なる義務の拒否を意味するものである。

他の列國との協同作業のためには獨逸は多くの、又吾人の信ずる如くんば、價值ある寄與をなした。且又吾が國は今日は經濟的にも政治的にも孤立せりと解さるべきではない。反對に余は政權獲得以來大部分の諸國と出來得る限り最善の關係を結ばん爲に努力した。たゞ一つの國に對しては如何なる關係をも求めなかつた、且つそれに對しては吾人は如何なる親好關係へも入るを望まない、ソヴィエト露西亞これである。吾人はボルシェヴィズムの中に以前にも増して人類撲滅衝動の具現化を見る。

吾人は此の恐るべき破滅のイデオロギーの責任を露西亞國民それ自體に歸せしむるものではない。斯くも巨大なる國民を此の狂氣狀態へ陥れたるは少數の猶太インテリ上層なるを吾人は知つてゐる。若し此の理論が地域的に露西亞國內のみに制限さるゝとならば、結局はまだ話の余地はある、何故ならば、獨逸は露西亞國民に吾人の生活觀を強制する意志はないからである。併し遺憾乍ら此の猶太國際的ボルシエヴィズムはソヴェエトの中心より世界の諸國民を内面的に滲蝕し、社會秩序を崩壞に導き文化に代ふるに混沌を置換へんとするのである。

ボルシエヴィズムへの接近を求むるは吾人ではない。反對に、彼の側より絶えず他の人類を其の思想と理念に依つて毒し延いては人類を此の上なき厖大なる範圍に涉り不幸に陥れんとしてゐる。此の點に於て吾等は互に相容れぬ敵である。吾人は獨逸國內に於て共產主義的モスカウの試みを廢滅せしめたる如く、外部よりも亦獨逸國をボルシエヴィズムの實質的暴力によつて壞滅せしむることも許容しないであらう。

扱て大英帝國は屢々其の責任ある政治家の口を藉りて、英國は世界の現狀維持に關心を有するものなる事を確言してゐるが、それは亦以上の點に就てもあてはめられねばならぬ。即ち歐羅巴内一國のボルシエヴィズム化は現狀を狂はすことを意味する。何となれば、其のボルシエヴィズム化せる地域は最早國民的獨自の生活を營む自主的國家には非ずして、モスカウ革命中軸の分區をなすものである。余は

イーデン氏がこれに同感ならざるを知つてゐる。併しスターリンはこれと同じき意見を有し、公然とこれを承認してゐるのである、余の考に依ればスターリンは個人として見れば、目下ボルシェヴィズムの觀念と意念に關する限り英國大臣よりもより信憑すべき識者であり、解釋者である。故に吾人はボルシェヴィズムを流布せんとを試みに對しては、それが何處に起らうとも嫌惡を以て、又それが吾人を脅かす所に於ては敵意を以て、對立するものである。

此處より日本に對する吾人の關係も生じて來る。余は、日本を害することに依り歐羅巴の世界に貢獻する所あり得べしと信ずる政治家の意見に與みすることは出來ない。余は、日本の極東に於ける敗退は決して歐羅巴或ひは亞米利加を利する所なく利益を受くるはボルシェヴィズム的ソヴェト露西亞のみならんことを惧れる。支那は自力を以てボルシェヴィズムの襲來に對抗するには、精神的にも或ひは物質的にも十分強力なるものとは考へられぬ。余は併し日本が如何なる大勝利を得ようともボルシェヴィズムの勝利に比すれば世界文化と一般平和のために比較にならぬ程其の危險度は少なきものと信ずる。獨逸國はコムインテルン運動防遏のため日本と協定を締結した。獨逸は支那に對しても常に友好的關係を持して來た。吾人の立場は恐らくは何れの國にもまして此のドラマの眞實の中立傍觀者たり得るものであると余は信ずる。吾人は皆、此の極東の二大國民間に再び平穩の狀態が復し、遂には平和が來らんことを過去に於ても望み、現在も又望んでゐることは再言するまでもないことである。

但し余の信する如くんば、若し某々強國が、正にエチオピア事變に於けると同じく、極東に於ても其の助言と、並びに恐らくは精神的援助の約束をたゞ片方のみに與ふることの度を過すことなかりせば、恐らく疾くに平和は克復してゐたに違ひない。上の如き出方は、目下の形勢では、全く非實際的意味しかあり得なかつたのだ。溺れるものは藁をも掴むのである。何時もの手で國際聯盟を以て平和と安全の確實なる保證であるが如く論究する所なく、寧ろ支那をして自己の状態の重大性に目覺めしめたらんには遙かによかつたのである。

極東に於ける事變の最後決定的解決が何時の日に來るとも、又如何に終らうとも、獨逸は其の反コミニズムの防衛態勢に於て日本をば常に安全保障、それも人類文化の安全保障の要素として見做し且認價することに變りはない。何となれば、日本が例へ如何なる勝利を博さうとも、白人種國民の文化に少しでも抵觸する所なきは吾人の疑はざる所であり、同時に、ボルシェヴィズムの萬一の勝利は白人種人の千年來の今日の文化を終焉に導くものなるは疑ひを容れざる所であるからだ。

これに關し、余は、獨逸國の其の極東に對する態度は白人種の利益に抵觸する所ありとして、吾人に非難を浴せるかの愚昧なる攻撃に對し最も激烈に抗議を呈するものである。斯様な論説を英國又は佛蘭西の新聞に目撃せざるを得ぬは、たゞたゞ呆れる外はない。

自己の種族的觀點からかくも激烈に戦ひ來りし外ならぬこのナチス國家が今や突如、種族の理念、

より適切に言ふならば種族の利益に對してお叱りをうける如き榮譽を頂戴しようとは之れ世界史上の滑稽事である。獨逸は極東に於ては何等領土的關心はない。たゞ商業取引をなさんどの理屈の通つた望を有するのみである。これは何も何れかある一方にのみ味方すると言ふ義務を生じない。寧ろこれはボルシェヴィズムの勝利は此の點に於ても亦其の最後の可能性を破壊するものなるを認識する義務を有するものである。

因に獨逸は嘗て極東に所有地を持つてゐた。この事實は列國が黃白人種國民の聯合に依り獨逸國を極東より放逐するに何等妨げとならなかつた。今日吾人は再び極東へ復歸すべき招待を受けようとは實際最早望んで居らない。

同じく獨逸國は目下西班牙に於て狂暴を逞うしてゐるかの恐るべき内亂に關しては、如何なる點に於ても何等領土的關心をもつてゐない。西班牙の情勢は嘗て吾人が獨逸國に於て經驗したるものと類似してゐる。此のモスカウより人員及び物質の形で國民的獨立國家に對して使喚し遂行されたる攻撃は、手を束ねて虐殺さるるを欲せざる國民的人民の反撃を受くるに至つた。然して獨逸國に於けると正しく同じく、此の場合に於ても、民主的國際聯合は、ボルシェヴィズム的放火犯人の味方をしてゐるのである。獨逸政府は西班牙のボルシェヴィズム化を歐洲動亂の要素と見るのみならず、歐洲勢力均衡の攪亂と見る、何故ならば、此の國にして先づモスカウ中樞の一分區とならんには、其の結果此の破

壊と滅亡の疫病は更に廣く傳播する危険がある、かくなれば吾人は此の結果に對して斷じて無關心であることは出来なくなるのである。

故に吾人の反ボルシェヴィズムの態度を第三國が又共にすることは吾人にとつて幸である。獨伊關係は共通の人生觀、國家觀の存在更に又吾人を脅威する國際的危険に對する共同の防衛に立脚したものである。此の感情が獨逸國民一般に普及せる事如何程であるかは、ファシスト國家の建設者の歡迎に於て見られたあの喜ばしき熱狂振りに於て最も的確に示された。若し一九二三年に、ムッソリーニがファシスト運動の勝利に依つて伊太利を征服することなかりせば、伊太利は恐らくはボルシェヴィズムの手中に陷つてゐたであらう、こは歐羅巴の全政治家の認識せざる不可ざるものである。

かゝる崩壊は西歐文化に如何なる結果を齎すかは全く想像も及ばぬものがあらう。單にかゝる可能性ありと思ふ丈でも史實に關し洞察力あり、歴史に對し責任意識ある者は戰慄を憶へるであらう。故にベニト・ムッソリーニが獨逸國に於ても彼の立場に對する共鳴を見出し得るは、歴史的に見て偉大なる現象である。

現在の伊太利の狀態は獨逸の狀態に似たる點が多い。かゝる情勢の下に於ては、同じく人口過剰に悩む吾人が、國民を國際聯盟の妄想的觀念のため崩壊せしむるを欲せず、寧ろそれより救済せんと決する所ある一人物一政體の爲す所に理解を示すは當然極まることである。この事實は、國際聯盟の皮

相の理想は元々其の主要列強の異常なる現實的利益とは一致する所なきは疑ひを容るゝ余地なき故に一層當然である。

西班牙事變に於ても亦獨逸伊太利は同じき解釋を有し、かるが故に同じ態度を持してゐた。獨伊の目的は國民的西班牙をして完全なる獨立を確保せしむるにある。獨伊友好關係はある一定の原因より發して漸次歐羅巴平和安定の要素となるに至つた。此の兩國が日本と結んでゐることは露西亞——ポルシエ^モヴィズムの暴力が更に進出するを斷然として防遏するものである。

最近數年屢々英佛對獨逸の對立なることが言はれ、且より屢々筆にのせられた。此の對立は如何なる點に十分なる根據ありて存するか、余には一々明瞭ではない。獨逸國は、余が既に一度ならず屢々強調せる如く歐羅巴に於ては佛蘭西に對し最早領土的要求をなすものではない。ザール復歸と共に獨佛の領土鬭爭の時期は決定的に終熄したるものと考へたい。

獨逸は又英國とも、吾人の植民地要求を別として、別に事をかまふる所はない。事實何等可能なりと考へ得べき紛爭の根據もないではないか。此等諸國家の共存を毒し、從つて煩ひの種ともなるものは唯一つ、これ等の國々にて「個人言論の自由」の標語の下に行はれつゝある、實に不快極まる新聞の煽動的論調である。これ等の國々に於ては、此の虛欺誹謗を終熄せしむるに法律的可能性の存在せずと外國政治家及び外交官から屢々きくが、これは余の理解出來ぬ所である。何故ならば此の點で

問題となるのは個人問題に非ずして國民間、國家間の共存問題ではないか。吾人は此の事象を長期に涉つて耐へ忍ぶことは出来ない。此の煽動の結果に對し目を閉じてゐることは出来ない。何故ならば、放つて置けばある種の國々に於ては卑劣なる國際的虛欺製造者の手に依つて吾が國に對する強烈なる嫌惡の念が進展し、其の結果吾が國に於ては新聞政策に依つてこれ等國民に對する敵意ある論調は禁せられて居る故に、獨逸國民の側よりは何等必要なる反對を受くることもなく、漸次公然と敵意ある輿論が吾人に對し生ずるに至るは容易なことである。然してこれは危険なことである、平和に對する危険である。故に余は吾が國及び吾が國民に對する絶へざる誹謗と侮辱の放埒なるやり方に對し反駁する所なく甘受する意志は最早持たない。今よりは吾等は反駁するものである。それもナチスの徹底を以て反駁するであらう。

最近數週間のみにても獨逸國に關し正に正氣の沙汰とも思へず、愚昧厚顏なる主張の言ひ振られたるものは、げに唾棄すべきものがある。

ロイター通信は余の生活に根も葉もなき攻撃を加へ、又英國新聞に於ては獨逸國內に於ける途方もなき大量檢舉、又瑞西、白耳義、佛蘭西に對する獨逸國境閉鎖等を報じてゐる。又他の新聞報道を見れば、曰く皇太子は獨逸より逃亡せり、曰く獨逸國內に軍隊暴動起りたり、曰く獨逸將軍にして逮捕せられしものあり、又反對に獨逸將軍は其の軍隊と共に首相官房へと（示威）行進をなせり、曰くヒ

ムラーとゲーリングは猶太人問題に關し相爭ふ所あり、其の結果余の立場非常に困難になりたり、或ひは曰く獨逸一將軍は腹心の者を通じてダラディエと結ぶ所ありたり、曰くシュトルプに於て軍隊反亂ありたり、曰く陸軍より除名されたる將校數二千、曰く全獨逸工業は戰時動員令を受けたり、曰く政府と私設工業間に深刻なる對立あり、曰く將校二十名、將軍三名はザルツブルクへ逃亡せり、曰く將軍十四名はルーデンドルフの遺骸をもちてブラーグへ避難せり、曰く余は最早聲を出す能はず、故に深謀遠慮のゲベルスは、將來余は蓄音器レコードに依りて演説すべく、余の聲音模寫可能なる人物を目下探索中なりと、これ等に對し何をか言はんや。余思ふに、これ等デァーナリズム的眞實を妄信する者は、明日にも、今日此處に立てるは果して眞實の余なるや否や紛争を起すであらう。余はたゞ身振のみをなし、其の間余の背後にて宣傳大臣殿が蓄音器のサーヴィスをなしたりと主張するであらう。最近イーデンはさる演説に於て自國の種々の自由を説いて熱狂する所があつた。但し彼は其の特殊の自由を一つぬかしてゐた。即ち何等の故障もなく且無限に他國民、其の制度、個人、政府を誹謗し、中傷するを許されるデァーナリストの自由これである。言ふまでもなく、これ等總ては眞面目に考へるにはあまりにも馬鹿らしき事である。結局は在獨幾百萬の外國人が、この眞實ならざるを見てくれるのである。何故ならば、自國よりあらゆる外國人を遠ざけ、領事館まで閉鎖するソヴイエト露西亞なる國際聯盟加盟國とは異り、獨逸に於ては何人も皆全く自由に其の現場で見聞を集め得るの

である。併し時と共にこれもやはり國際關係の困難なる煩累となる。余は外國新聞の一部は他國民の名譽を毀損すべき卑劣なる攻撃に参加して居らぬ事は喜んで確認する。併しそれにも拘らず如上の煽動戰を通じて捏造される害毒は非常に大なるが故に、余はこれ以上これに痛烈なる駁論をなす所なく甘受する意志は今より以後最早有せざるものである。特に、諸國民を驅つて戰爭に至らしむる明瞭なる目標ある場合、その害毒は特に甚しい。余は此處にたゞ二三の事實を示すに留めよう。

議員諸君、昨年のことであるが、獨逸は二萬の兵士を西班牙領モロッコに上陸せしめたりとの思ひがけぬ虚報は諸君の記憶せらるる所であらう。幸にして此の破廉恥なる虚報は直ちに否定された。併し、萬一此の否定が必要なる短期間になし得られざりしには、如何なる事態を惹起したであうか。

更に獨逸と伊太利は西班牙を分割することに意見の一致を見たとの主張、或ひは獨逸と日本は和蘭植民地を横領共有せんと協定を締結せりとの最近の惡意に満てる虚偽は此の罪惡の主要なるものに數へられる。此處に於ても未だ眞面目なる仕事を語り得るであらうか、自由を口にし得るであらうか、これ等はかの國際的犯罪者達に、世界を絶へず不安に導くを可能ならしめてゐるではないか。これこそ最も惡質の戰爭教唆者であり、戰爭使喚者ではないか。英國政府は軍備制限又は空爆禁止を望んでゐる。これ等は余も嘗て呈議した所である。併し當時余は更に亦陰險な新聞記事に依り、世界の公論の毒せられるを防衛することこそ最も重要なことをも呈議した筈である。

吾人の伊太利に對する共感を、——若しかう言ふ事が言へるとすれば、——一層強めたるものは伊太利に於ては國家統治と新聞政策が軌を同じうしてゐる事實である。國家統治が意志の疎通を説く一方、新聞が其の反對の煽動を行ふことなき故である。

他國の元首に對して、裁判所の判決に關し説明を求めて手紙を書く如き不遜行爲も亦此の國際攪亂の章に屬するものである。余は英國下院議員諸君に獨逸國民裁判所の判決に頓着する所なく、イエール・サレムの英國軍法會議の判決に注意を向けられたと薦めたいのである。英人が獨逸の判逆罪犯人に利害を感じるは腹の底は見えてゐるが、斯る關心は獨英の關係を好轉さすには何の役にも立たぬ事である。

兎に角獨逸法廷或ひは獨逸刑執行にかくも拙劣に干渉して、それが効果をあらはすなどとは何人も自惚れて貰ひたくないものである。余は如何なる場合も、獨逸國會の議員が、英國司法事件に氣を病むことは許さない。大英帝國の利害は勿論大きいに違ひない、吾人も亦それを夫として認めてゐる。併し獨逸國民及び獨逸國の重要事は獨逸國會と、國會よりの委託者として余が決するのだ、英國の書簡かきの委員會が決するのではない。

余は、非戰闘員への瓦斯彈、焼夷彈、爆彈の投下を國際的に防止するのみならず、何より先づ瓦斯彈、焼夷彈が嘗てなし得たりし以上に、國家關係を險惡ならしむる如き新聞の販賣を除去するに成功

したならば、實に功多き業績ならんと思ふものである。

此の國際的新聞煽動は勿論靜穩のためといはんより國民間の平和攪亂の要素として考へねばならぬが故に、余は此の獨逸國に對する狂暴なる戰爭への脅威が何時の日か血酷ぐさき暴力に變ぜざるよう其の保障として獨逸國防軍の強化を決心したのである。此の計畫は本年二月四日より實行に移され、迅速に且斷乎として遂行されるであらう。

獨逸國自身は如何なる場合にも、歐洲の全強國及び他の列國と親密なる關係を建設せんとの誠實なる願望を有してゐる。若しこれが實現が不成功なる時は、吾人には責任はない。

勿論吾人は此の新聞の態度に直面しては、會議及び別個會談よりは目下は多く期待すべからざるを信ずる。何故ならば以下の如き事實に關しては自己僞瞞に甘んずるわけにはゆかないからである。これ等反平和的國際的新聞戰は國民間の和協に至るあらゆる試みを直ちに害する術を心得てゐる。それはすべての會談を直ちに曲解し、或ひは反對の方面に歪曲するであらう。それはあらゆる協定を直ちに改竄するものである。故にかゝる状態では、各國政府が一般に公の輿論を顧慮する所なく斷行し得ざる限り、かゝる會談又は會見から如何なる效用をも期待し得べくもない。

故に吾人は、目下の所、正規の外交的文書交換の途が、少くともこれ等國際的新聞の鐵面皮の歪曲に對して其の前提を無にする唯一差障りなき道であると信ずる。

吾人は獨逸と境を接する大部分の國家と正常なる且一部は友好的なる關係を維持し得て居ることを幸福に感じてゐる。至る所に緊張緩和の感が生じてゐると思はれる。歐羅巴の二三の國家に見る如き實際の中立への強烈なる努力に對しては吾人は深く且心から満足を感じてゐる。其處には高まりつゝある平穩化従つて政局安定の要素ありと見てよいものと信ずる。併し反對に經濟及び人口政策の狀態に關する歐洲現勢地圖を目茶々々にしてしまつた狂氣の沙汰とも云ふべきヴェルサイユ的一幕の痛ましき結果を見逃がすわけには行かない。

たゞ吾が國境に接する國家の内二つは千萬に餘る多くの獨逸人集團を包含してゐる。彼等は一八六六年までは猶獨逸全國民と共に國法的に一つの聯邦をなしてゐたのであつた。一九一八年までは彼等は獨逸兵士と肩を並べて共々かの大戦に戦つたものである。彼等は平和條約に依つて自らの意志に反し吾がライヒの合邦を拒まれたるものである。これ丈でも既に悲しむべきことである。唯一點吾人の眼に疑ふべからざるものがある。吾國よりの國法上の分割は民族政策的にみて權利剝奪を招來し得ない、即ち、民族自決權は、序で乍らこれはウィルソン案十四條に於て停戦の前提として禮々しく吾人に與へられるべしと保證されたものであるが、この民族自決權は獨逸人が問題となるの故を以てさう簡單に輕視さるべきものではない。長い間には自覺ある強國たるものは其の傍にゐる同胞がその屬する全民族と又其の運命、世界觀とに共鳴し且これと結合してゐるが故に、常に重壓を蒙るを見る

は耐へ難くなるに違ひない。

吾人は何れの國をも満足せしむる如き國境線制定は歐羅巴に於ては不可能なるは熟知してゐる、但し少數民族に對しては政治的分割の憂苦に加ふるに、更に一定の民族に屬せるの故を以て迫害さるる如き憂苦を加ふることなきよう、不必要なる虐待を避くるはそれ又重要なことである。

此處に本當に其氣さへあれば歩みより又は緊張緩和への道を見出す可能性あることは證明されてゐたのだ。併し此の歐洲に於ける歩み寄りに依る危機緩和を暴力を以て防害せんとするものは、何時か必らずや民族間に暴力争闘を喚起するに違ひない。何故ならば、獨逸國が無力無防備である限りは吾が國境に於ける獨逸人は間斷なく多くの迫害に甘んぜざるを得ぬことは論議の余地なき所である。但し英國が全世界に涉つて其の權益を庇護代表する如く、今日の獨逸も例へ其の範圍は局限されたるもの乍らやはり自己の利益は代表庇護し、且つそれを守ることは知つてゐる。然して、吾が國境に於て其の一般人間的、政治的乃至世界觀的自由の權利を自力を以ては保障し能はざるかの獨逸同胞を庇護することも此の獨逸國の利益の中に算入される。

吾が國の最初の大外交協定後の第五年に於て、吾人は心からなる満足をも以て以下の事實を確認し得る、即ち吾等と恐らくは最も大なる對立をなしてゐた（波蘭）國家と吾人の關係は單に其の緊張が緩和せるのみならず、最近益々友好的接近を見て來たことである。此の事實は先づ第一に、當時ワルソ

ウには西歐議會主義存在せず、卓越せる人物にして、斯くの如き獨波關係緊張緩和は歐洲に重大なる意義ありとの念を懷ける一元帥ありし事情に負ふ所多きを余はよく知つてゐる。當時多くのものに懸念されたる工作は其の間に其の試練に耐へ、國際聯盟がダンツィヒに於ける絶へざる防害運動を遂に放棄し、新委員に依つてある非凡なる一人物を免黜して以來、今日では此の歐洲平和に對し最も危険なる地點は其の危険なる意味を消失したものと云ひ得る。

波蘭國家は其の自國內の國民的情勢を尊重し、ダンツィヒ及び獨逸國は亦波蘭の權利を尊重する。かくてダンツィヒより出でて、今日多くの平和攪亂の試みにも拘らず獨波關係を終局的に好轉し、誠實なる友好的協力に變化せしめ得たる協調への道を平坦ならしむるに成功した。

余は議員諸君に、種々の理由から特に吾人に近接せる國と最近一層の協調を實現し得たるを報告し得るを喜びとする。その國は單に吾人と同民族なるのみならず、特に獨逸兩國を結合する長年の同一歴史と、又共通の文化を有する國である。

七月十一日の協定執行が困難なりし事實に鑑み、最後の和協に對する誤解と障害を除去すべき試みをなすは必要なることであつた。

何故なれば、夫自體耐へ難くなつた状態は何時かは、その欲すると欲せざるに關はらず、何時かは極惡なる大破綻に對する前提となり得ることは明かなる所であつた。一度廻轉を始めた運命を止むる

は最早人力をもつてしては先づ不可能と稱してよい。此等の認識は、余が來訪を求めし奧太利首相の解釋とも一致したるを確認し得て余は欣快を感じてゐる。この際吾人の見解並びに目的は次の方法、即ち奧國民中彼等の見解並びに世界觀上國民社會主義的に思考する人々は、其他現行法の範圍内に於て、他の國民にも亦屬する同一の權利を與ふることにより吾々の關係の緊張緩和を招來せしむることであつた。これと共に全般的恩赦に依り一方又可能なるすべての政治的、人事的、物質經濟的協力の種々の領域に於けるより緊密なる友好的關係に依り、大なる充足的行動が發生し兩國家間によりよき協調が開かれるべきであつた。これ等すべては七月十一日の協定の範圍内に於ける補足である。

余は獨逸國民を前にして此處に、余の招待に應じ、其の故郷の搖籃は何處にてもあれ吾等は皆等しくかの總體的獨逸民族の兒等であるが、此の兩國の利益及び同じく全獨逸民族の利益を決すべき一路を余と共に行かんと努力せる、大なる理解と情と厚き好意に對し、奧太利首相に余の心からなる感謝の念を捧げる。

吾等はこれに依り歐洲平和に對し貢獻をなし得たるものと信する。

此の判斷の正當なるは、常に平和を口にしながら、戰爭を使喚すべき機會は一も逃さざるかの民主的世界市民の激昂に依つて最も確實に證せられる。彼等は此の協調的外交工作に關し激怒、憤激した。故に却つて適切且つ正當なりと判斷して差支へない。

この事實は歐羅巴の緊張を暫次緩和するに至らしむるに役立つかも知れない。何れにせよ獨逸國は其の友好關係に依據し、吾人の前に横はる仕事に對して將來も亦前提を與ふる財寶即ち平和を救ふべくあらゆる試みを爲さないでは置かぬ積りである。

黨員諸君、此處に余は歐羅巴諸國及び、歐洲以外の諸國に對しても吾人の關係は良好且つ正常なるか或ひは非常に友好的なることを確言し得る。

たゞ此處では、例へば洪牙利、勃牙利、ユーゴスラヴィヤ其の他の諸國と結べる特に親密なる友好關係につき一言すれば足りるであらう。他國民との經濟的協力の範圍に關しても、吾人の外國貿易のバランスが諸君に明白なる考を與へてゐる。

併し、獨逸國と同じくボルシエヴィズムに世界的危機を認識し、其の故にコムインテルン運動に對し共同防遏戰線を敷くを決せるかの二大強國との協力に如くはない。

此の伊太利及び日本との協力が益々強化の度を加ふるは余の心より希望する所である。其の他吾々は、一般政治情態に發生し得るあらゆる緊張緩和に對し感謝の念を抱く。何となれば、吾が國民の業績が如何に偉大なりとも、同時に國際間の協力が強化するに至らば、人類福祉への效果の猶一層増加するは疑はないからである。

獨逸民族は其の本質上決して好戰的ではない、軍人的である、即ち、それは戰を望むものに非ざるも、

惧るゝものではない。そは平和を愛するものであるが、名譽及び自由を愛する點にも變りはない。吾人の過去に横はれる怖ろしき十五ヶ年は、余の信する所に依れば、獨逸國民の常に反省し、且つ忘るべからざる警戒であり、且つ教訓である。

黨員諸君！ 獨逸國會の諸君！ 余はかの授權法の協賛に依つて余の活動の前提をつくられし諸君に、獨逸國民生活の歴史的五ヶ年間の報告をなした。終りに望み、余は、吾人に熱烈に愛せらるる國民及びライヒの將來への余の確信が如何に大なるかを諸君に保證せざるを得ぬ。嘗て余が一介の無名の兵士なりし時に、獨逸國再興への闘争へ余を驅つたものは、つまる所獨逸國民への信念であつた。そは、其の制度に非ず、社會秩序及び社會的階級に非ず、政黨に非ず、國家的並に政治的權力に非ず、然らずして獨逸國民の永遠の内面的價值に對する信念であつた。

更に何より先づ、嘗ては余も亦其の一人であつたが、單に吾人の生活及國民團體の名もなき支持者にすぎざりし幾百萬の男女個人に對する信念である。新獨逸國の建設のための余の努力は亦彼等の爲でもあつた。新獨逸國は斷じて一階級のものならず、一身分のものならず、獨逸國民に屬すべきものである。地上に於ける生活をより容易に見出し、其の存在をより美しきものに形成し得る如く獨逸國は國民に助力を與ふべきである。此の時代に余の創設したものは何等自己目的をもつものではない。すべてはこれ無常である。但し吾人にとりて不滅なるものは獨逸國民といふ肉と血よりなる實體であ

る。政黨、國家、國防軍、經濟は、單に目的に對する手段としての價值が與へられるに過ぎざる制度であり、機能である。これ等は、其の目的を達する役目に應じて歴史の前に科量せらるるものである。歴史の目的は一定不變常に民族である。

それ等は唯一の時を超越せるものに對する時に制約されたる現象である。其の唯一のものに余の全精力をもつて奉ずるは、余の生涯過去現在を通じての幸福である。余の卓越せる多くの同志、彼等なかりせば余の仕事も決して成果ををさめ得なかつたが、其の同志に感謝するは余にとつて喜ばしき義務である。此處に余は、神が今後と雖も吾人の仕事、吾人の行動、吾人の洞察及び吾人の決斷力に其の祝福を垂れ、又吾人を誤れる高慢、及び同じく卑屈なる屈從より護り、更に又神の攝理が獨逸國民に定められた眞直の途を導かれ、吾人が正義をなし、斷じて暴力及び危險にたぢろがず、回避せざらん勇氣を常に與へられんことを、此の際吾等が神に祈るものである。

最後にナチス運動、ナチス國軍及び吾が獨逸ライヒの隆盛を望む。(終)。